

# 地域課題解決型キャリア教育の手引き

令和4年3月

三重県教育委員会事務局 教育政策課

## はじめに

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代と称され、先行きが不透明で将来の予測が困難な未来を迎えようとしている中、経済協力開発機構(OECD)では、これからの社会を担う子どもたちに、主体的に行動し、責任を持って社会変革を実現していく力を発揮しながら、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動を取る力を身につけていくことが求められると提言しています。こうした力を三重県の高校生に育てていくためには、学校内の学びだけではなく、実社会で活躍する多様な人々と関わりながら学びを進めることがより必要であると考えています。

こうしたことをふまえ、三重県教育委員会では、令和元年度から3年間、地域の協力を得ながら、1学年3学級規模以下の県立高校において、『地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業』を実施してきました。

本事業では、生徒が地域の課題や特色ある産業を題材に、地域住民や職業人など多様な人々と関わりながら課題解決に取り組むことを通じて、他者と協働する力など、これからの社会の変化に対応するために必要となる力の育成に取り組みました。このことにより、地域への愛着や誇りを高めるとともに、将来地域で活躍する姿をイメージすることや、「志」を持って学び続ける姿勢を養うことを目指しました。事業を推進するにあたっては、学識経験者、産業界関係者、高校関係者等からなる地域課題解決型キャリア教育推進委員会（以下「委員会」という。）を設置して、学習内容や学習の進め方、そのことにより培われる生徒の資質・能力、学校と地域との関わり方等について検討し、地域と協働した学習を推進してきました。

一方、本事業の期間中、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休校等により学校の教育活動は大きく影響を受けることとなり、地域と協働した学習についても延期や中止を余儀なくされることもありました。このような中であっても、各校は、地域の方々の協力をいただきながら感染症対策を十分に徹底したうえで活動を行ったり、ICTを活用しながら遠方からの講演・指導の実施や、県内外の高校とつないだ交流活動をするなど、様々な工夫を行いながら、継続して取組を進めることができました。

本資料は、今後、地域課題解決型キャリア教育をより効果的に進める際に活用できるよう、取組に関わった教職員等の意見や委員会での検討をふまえ、各校が3年間取り組んだ地域と協働した学習の取組内容を整理し、まとめたものです。こうした実践を県内各地に広げ、子どもたちの学びがより充実し、様々な工夫や新しい見地が生み出されることを期待するとともに、その内容を本資料に追記していくことで、三重県ならではの地域課題解決型キャリア教育の学びがより一層深化していくと考えています。

最後に、本事業の実施および本資料の作成にあたりご尽力を賜りました地域の企業や関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

令和4年3月

三重県教育委員会事務局  
教育政策課長

# 目次

---

1. 作成にあたって .....	1
(1) 高校教育を取り巻く状況と課題について .....	1
(2) 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業について .....	2
(3) キャリア教育における地域課題解決型学習の位置付け .....	3
2. 探究的な活動について 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』より .....	5
(1) 新高等学校学習指導要領の基本的な考え方 .....	5
(2) 「総合的な探究の時間」における探究的な活動 .....	5
3. 『地域課題解決型キャリア教育モデル』とは.....	8
(1) 全体イメージ .....	8
(2) 基本的な考え方 .....	9
(3) 校内推進体制の構築.....	10
(4) 地域等との連携 .....	11
(5) 地域課題解決型キャリア教育の進め方 .....	12
(6) 『授業での活動』をふまえた年間計画（例） .....	17
(7) 『課外活動』の流れ .....	20
4. 参考資料 .....	22
(1) 実践例 【実践パイロット校の3年間の取組を整理】 .....	22
【普通科】三重県立白山高等学校（※普通科・情報コミュニケーション科） .....	22
【普通科】三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 .....	24
【普通科】三重県立南伊勢高等学校度会校舎 .....	26
【普通科】三重県立志摩高等学校 .....	27
【普通科】三重県立紀南高等学校 .....	29
【総合学科】三重県立飯南高等学校 .....	31
【総合学科】三重県立昂学園高等学校.....	34
【総合学科】三重県立鳥羽高等学校 .....	35
【総合学科】三重県立あけぼの学園高等学校 .....	36
【専門学科】三重県立水産高等学校 .....	39
(2) より効果的な活動に向けて（ICTの活用の実践例） .....	41
(3) 生徒アンケート .....	45
(4) ご協力いただいた事業所・講師等.....	47
(5) 参考となるwebサイト等 .....	51

# 1. 作成にあたって

## (1) 高校教育を取り巻く状況と課題について

- 社会・経済のグローバル化やAIをはじめとする技術革新の急速な進展による産業構造や雇用環境の変化、少子・高齢化、環境問題など、教育を取り巻く状況は大きく変化しています。
- 学習指導要領の改訂やGIGAスクール構想の進展など、教育改革が急速に進む中において、高校教育を取り巻く環境の変化や課題に的確に対応し、持続可能な社会を築くことができる人材を育成していくことが求められています。
- 新型コロナウイルス感染症が拡大し、生徒の学びを継続するためのオンライン学習が行われる中、高校においても、学習機会や学力の保障だけでなく、協働した学習や地域と連携した学びなどの教室内外の学習活動において、多様な考えにふれたり切磋琢磨することで社会性・人間性を育むといった学校の役割や機能の重要性が再認識されました。
- 生徒数の減少に伴う高校の小規模化に伴い、「関係性の固定化」「価値観の同質化」などが課題となっています。ICTも活用しながら、グローバルな視点をもって他校の生徒や世界の人々と学び合うことや、地域の大人と交流して多様な価値観にふれることなどの協働的に学ぶ機会を確保する必要があります。
- 選挙権年齢、成年年齢が18歳に引き下げられる中、高校生が社会の形成者としての自覚を持ち、これからの社会の担い手となるよう自律した大人として行動できるようになることが重要となっています。
- これまでの高校でのキャリア教育は、望ましい職業観・勤労観の醸成に取り組みつつも、生徒の興味・関心や希望に即した就職・進学指導など、卒業後の進路実現に力点が置かれる場合があり、社会に出てから必要とされる資質・能力を育成するという視点が十分であるとは言えないところもありました。今後は、教科等で身につけた力を実社会・実生活で生かすことで、これまで以上に学んでいることと実社会を結びつけ、生徒の学ぶ動機を明確にし、主体的に学びに向かう姿勢や態度を育成することがより一層大切となっています。
- 今後の変化が激しく予測困難な時代において、高校生にこれから必要とされる「生きる力」を育むためには学校内での知識や技能の習得を主とする教科・科目の学習だけではなく、実社会で活躍する多様な人々と関わる中で、自己の在り方生き方を考えながら、自ら問いを見いだし探究するという経験が重要となってきています。

## (2) 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業について

三重県教育委員会では、令和元年度から3年度にかけ、1学年3学級規模以下の県立高校を実践パイロット校に指定して、地域を学びの場とする地域課題解決型学習の構築を目指し『地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業』を実施してきました。

### 【地域課題解決型キャリア教育の趣旨・目的】

- ・学校での学びだけでなく、地域住民や職業人など多様な人々と関わりながら、生徒が地域の特色や産業を題材に、地域の魅力や課題を知り、自分たちに何ができるのかを主体的に考え行動する学習活動に取り組む。
- ・生徒が多様な価値観にふれることで、他者と協働する力や自己と社会との関わりを考える力など、これからの社会の変化に対応する力を育成するとともに、地域への愛着や誇りを高め、その地域で活躍できる将来像をイメージすることや、将来にわたって「志」を持って学ぶことにもつなげる。

### 【地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業の概要】

- ・各実践パイロット校では、地域の職業人からの講義やフィールドワーク等、実社会を感じることが出来る多様な人々と関わりながら、地域の魅力や課題を知り、解決策を考え実践する教育活動を実施し、社会で活躍する意欲と能力の向上、生涯にわたり能動的に学び続ける資質を育成する。
- ・各校の取組は教育課程内での実施を原則とし、地域での活動を通じて、生徒が主体的に探究する活動へと発展させる。
- ・地域住民や関係企業等を招いた学習成果発表会を開催し、その評価を次年度の取組の改善に生かす。
- ・高校と地域、地場産業等をつなぐコーディネーターを配置し、高校が必要とする人的・物的資源を活用できる体制をつくる。
- ・1学年3学級以下の高校に設置した学校別協議会を活用し、地域の状況や高校が地域で果たす役割、学校の特色等に配慮しながら、特色化・魅力化の推進、所在する市町からの支援方策、学校のPRなど地域と一体となった活性化に取り組む。

### 【実践パイロット校9校10校舎】

- ① 三重県立白山高等学校（津市）
- ② 三重県立飯南高等学校（松阪市）  
※文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」研究指定校（R1～3）
- ③ 三重県立昴学園高等学校（大台町）
- ④ 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎（南伊勢町）
- ⑤ 三重県立南伊勢高等学校度会校舎（度会町）
- ⑥ 三重県立鳥羽高等学校（鳥羽市）
- ⑦ 三重県立志摩高等学校（志摩市）
- ⑧ 三重県立水産高等学校（志摩市）
- ⑨ 三重県立あけぼの学園高等学校（伊賀市）
- ⑩ 三重県立紀南高等学校（御浜町）

### (3) キャリア教育における地域課題解決型学習の位置付け

三重県の各高校では、生徒の輝く未来づくりにつながるキャリア教育を実践していくため、「三重県版キャリア教育プログラムシート」を活用しています。このシートでは、生徒・学校の現状を把握したうえで、高校や大学等を卒業した後の社会生活における生徒の姿を「将来の姿」として設定し、その実現のために生徒が高校時代にどのような力を、どの時期に身につけていくかを考え、教育活動全体を通じた独自のキャリア教育を策定し、実施、評価、改善を図っています。

地域課題解決型キャリア教育では、社会が大きく変化していく中、学校での学びだけでなく、地域住民や職業人など多様な人々と関わりながら、生徒が地域の特色や産業を題材に、地域の魅力や課題を知り、自分たちに何ができるのかを主体的に考え行動する学習活動に取り組みます。学習を進めることにより、地域への愛着や誇りを高めるとともに、社会で活躍する意欲と能力の向上、生涯にわたり自律的に学び続ける資質の育成を目指します。

こうした学習を進めるにあたっては、教育活動全体を通じたキャリア教育の視点をふまえ、それぞれの学校のカリキュラムにおいて育てたい生徒の資質・能力を明確にして、キャリア教育プログラムに位置付けることが大切です。

#### <キャリア教育で育成すべき力> 「基礎的・汎用的能力」

##### ○「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

(ex) 他者の個性を理解する力・他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル  
チームワーク・リーダーシップ等

##### ○「自己理解・自己管理能力」

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

(ex) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動等

##### ○「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

(ex) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案  
実行力、評価・改善等

##### ○「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連をふまえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

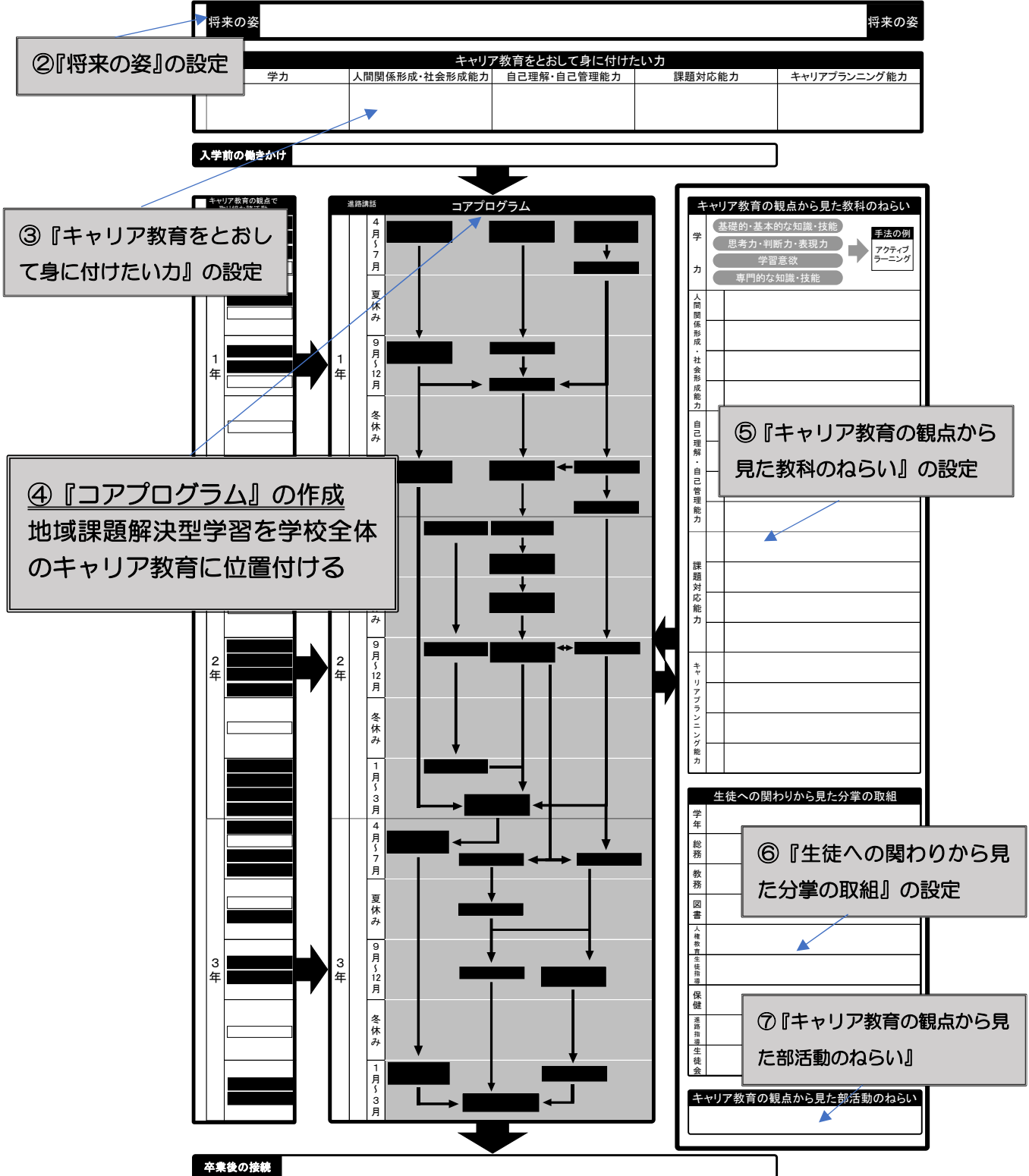
(ex) 学ぶこと、働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

# 【三重県版キャリア教育プログラムシートの構成】

①生徒・学校の現状把握

⑧次へつなげるための振り返り（評価・改善）

三重県立〇〇〇高等学校（全日制課程） キャリア教育プログラム



②『将来の姿』の設定

③『キャリア教育をとおして身に付けたい力』の設定

④『コアプログラム』の作成  
地域課題解決型学習を学校全体のキャリア教育に位置付ける

⑤『キャリア教育の観点から見た教科のねらい』の設定

⑥『生徒への関わりから見た分掌の取組』の設定

⑦『キャリア教育の観点から見た部活動のねらい』

■ 『三重県版キャリア教育プログラムについては！』  
<https://www.pref.mie.lg.jp/KOKOKYO/HP/m0204200030.htm>

## 2. 探究的な活動について 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』より

### (1) 新高等学校学習指導要領の基本的な考え方

令和4年度から実施される新しい学習指導要領では、①「社会に開かれた教育課程」を重視すること ②知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること ③豊かな心や健やかな体を育成することを基本的な考え方として、知徳体にわたる「生きる力」を生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等の学ぶ意義を共有しながら、全ての教科等の目標や内容を次の3つの柱で整理し明確化しています。

- ・「知識・技能」(何を理解しているか、何ができるか)
- ・「思考力・判断力・表現力等」(理解していること・できることをどう使うか)
- ・「学びに向かう力・人間性等」(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していく必要があります。特に高校教育では、キャリア教育の視点で学校と社会の接続を目指す中、生徒一人ひとりに社会で求められる資質・能力を育み、生涯にわたって探究を深める未来のづくり手として送り出していくために、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かすことができるようにするとともに、各校においては教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが重要視されています。

こうした教育活動を進める際の軸となるのが探究的な活動です。この探究的な活動は、「総合的な探究の時間」をはじめ、専門学科の「課題研究」や総合学科の「産業社会と人間」などをふくむ各教科・科目で実施されており、課題解決型学習を進める際には特に大切となります。

### (2) 「総合的な探究の時間」における探究的な活動

#### ① 「総合的な探究の時間」の特質

総合的な探究の時間では、「自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、『見方・考え方』を組み合わせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究することのできる力を育成する」としており、そうした生徒の姿を実現するにあたっては、生徒が取り組む探究がより質の高いものであることが求められるとしています。

質の高い探究とは、一つは探究の過程が高度化することであり、もう一つは探究が自律的に行われるということであり、以下のような姿で捉えることができます。

#### (探究の過程が高度化すること)

- ①探究において目的と解決の方法に矛盾がない(整合性)、②探究において適切に資質・能力を活用している(効果性)、③焦点化し深く掘り下げて探究している(鋭角性)、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している(広角性)などの姿

#### (探究が自律的に行われること)

- ①自分にとって関わりが深い課題になる(自己課題)、②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる(運用)、③得られた知見を生かして社会に参画しようとする(社会参画)などの姿



## ②「総合的な探究の時間」の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。⇒総合的な探究の時間の特質をふまえた学習の在り方

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(1) (2) (3) ⇒総合的な探究の時間で育成することを目指す資質・能力

### ○ 総合的な探究の時間の特質をふまえた学習の在り方

(探究の見方・考え方を働かせる)

探究の過程（プロセス）が「総合的な探究の時間」の本質であり、この学習で生徒は、①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 という探究の過程を経て、そこから新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めるといった問題解決的な学習活動を繰り返していきます。

(横断的・総合的な学習を行う)

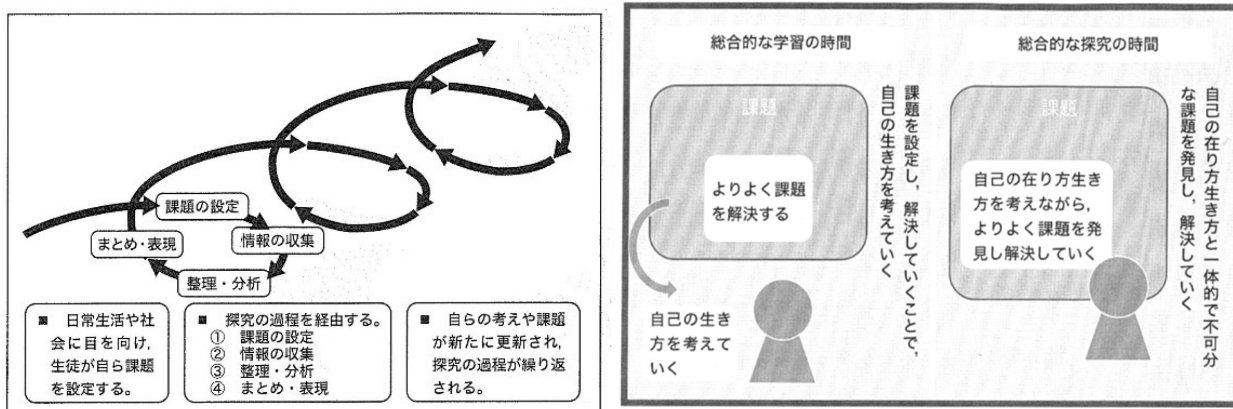
総合的な探究の時間の学習では、教科・科目等の枠を越えて探究する価値のある課題について、各教科・科目等で身につけた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくこととなります。目標を実現するにふさわしい探究課題とは、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて各学校が設定することになりますが、それは例えば、①国際理解、情報、環境、福祉・健康など現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、②地域や学校の特徴に応じた課題、③生徒の興味・関心に応じた課題、④職業や自己の進路に関する課題などとなります。

(自己の在り方生き方を考える)

自己の在り方生き方を考えるとは、①社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えること、②自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えること、そしてそれらを生かしながら ③学んだことを現在および将来の自己の在り方生き方につなげて考えること、という三つの角度から考えることです。その学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、人間としての在り方を基底に、自分の人生や将来、職業について見通し、どのように在るべきかを定めていくことを意味しています。

(よりよく課題を発見し解決していく)

解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、現在の具体的な課題に粘り強く対処し解決しようとするのが重要です。さらに、課題を発見することは、自分と課題との関係を明らかにすること、実社会や実生活と課題との関係をはっきりさせることにつながるため、生徒自身が課題を発見することが最も重要となります。

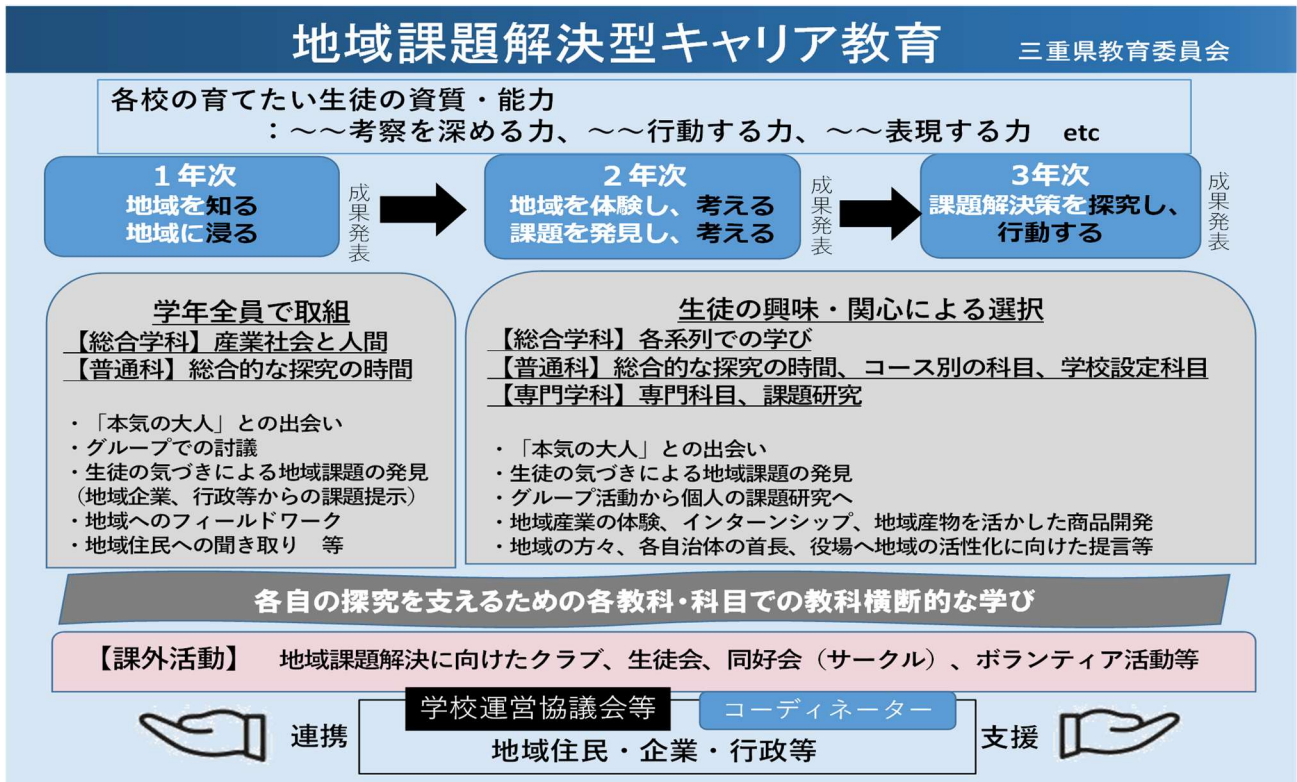


### ○ 総合的な探究の時間で育成することを目指す資質・能力

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。**(知識および技能)**
- ⇒ 様々な人の考えに出会い、長時間じっくり課題に取り組む探究の過程をとおして、様々な知識を自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結びつけながら、構造化し、身につけていきます。そして、実社会や実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識となる概念が形成され、そうすることで生徒は探究の意義や価値を理解し、様々な場面で自らが探究を自律的に進めるようになっていきます。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。**(思考力・判断力・表現力等)**
- ⇒ 生徒が感じた問題意識から自ら課題を立てることが重要ですが、問いや課題は生徒が持っている知識や経験だけでは生まれないこともあります。そのため、実社会や実生活と実際に関わることが求められます（地域で活躍する方々との出会いなど）。探究の過程が動き始めると、複数の「知識および技能」を組み合わせ活用することで、問いや課題を掘り下げていきます。失敗の経験もしながら、これらの探究の各プロセスを何度も繰り返す中で、「知識および技能」を自在に駆使し、「思考力・判断力・表現力等」が確実に養われると考えられます。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。**(学びに向かう力、人間性等)**
- ⇒ よりよい課題解決のためには、主体的に取り組むことと、協働的に取り組むことが重要です。自ら設定した課題の解決に向けては、真剣に本気になって学習活動に取り組むこととなり、さらに、複雑な現代社会においては一人だけの力で何かを成し遂げることは困難なことも多いため、協働的に探究を進めることが必要となります。また、高校生の探究が、実際に社会を変える力となることも多く、探究をとおして、生徒は自分なりの世界観や価値観を築いていくとともに、地域の人々との協働によって実際に地域社会を変えるなど、よりよい社会を実現することに向けた経験を積んでいきます。

### 3. 『地域課題解決型キャリア教育モデル』とは

#### (1) 全体イメージ



#### < ポイント >

- 地域課題解決型学習を進めていく際には、教育活動全体を通じたキャリア教育に位置づけるとともに、「総合的な探究の時間」や、「課題研究」、「産業社会と人間」をふくむ各教科・科目などの教育課程内で実践することにより、カリキュラム・マネジメントの実現につなげていくことが大切です。
- 地域で活躍する方々からの話を聞いたり、地域で体験的に学んだりする中で、生徒は自分の将来を見据え、客観的に自分自身を見つめ直すことができます。「地域を知る」ことと同様に「自分を知る」ことが重要であり、その中から自身の興味・関心の高い課題へより深く探究を進めることができます。また、課題は大人から与えられるのではなく、十分に時間をかけて自分自身で発見していくことが重要です。
- 探究的な活動は、グループ活動の中で生徒同士が協働的に学び合うことから始めることが望ましいですが、探究の学びが深まるにつれて個人での活動に移行していくことが考えられます。教職員は生徒とともに考え、伴走していくことが重要であり、生徒の学習意欲がさらに向上（「生徒の探究心にスイッチが入る」「生徒の心に火が付く」状態となる）すれば、生徒が自走しはじめ、より主体的な探究活動として深化していきます。
- 実社会や実生活との関わりから自己の問いを見だし、自分で課題を設定し、解決に向けて考えることができる力を身につけることを目指します。自己の在り方生き方を考えながら取り組むことで、生徒は教科等で身につけた力を課題発見・解決の経験の中で生かし、自分自身の進路探究につなげます。

## (2) 基本的な考え方

地域課題解決型キャリア教育を進めるにあたって、各校・各地域に共通する基本的な考え方を以下に整理します。

### ポイント1 地域での学習をととして探究的な学びを深める

- ・生徒が意欲的に探究活動に取り組むことができるよう、個々のニーズに応じて多くのテーマ・課題に対応できるように意識するとともに、フィールドワークなど実社会での体験の機会を設定する。
- ・教職員がどう教えるかではなく、どのように学びをサポートしていくかという視点で取り組むとともに、教職員自身も授業を楽しむように心掛ける。
- ・地域課題解決型キャリア教育に取り組む学校同士が、情報共有・生徒交流を行うことでよりよい取組につなげる。
- ・探究のプロセスは1年単位ではなく、学期単位とした方が生徒は軌道修正しやすくなる。

### ポイント2 教育課程への位置付け

- ・学校や地域の現状に応じて、地域と協働した教育活動をキャリア教育の一環として教育課程に位置付ける。
- ・生徒の探究活動がより深まるように、各教科・科目の中でテーマや題材に関わる学習内容を取り上げることで、教科横断的な学びにつなげる。

### ポイント3 地域との連携

- ・市町の行政や地域おこし協力隊等の支援を受けて、フィールドワークの調整を行うなど地域との協力体制の中で学校の取組を進める。
- ・地域住民や地元企業とのつながりも生かして、生徒の様々な探究活動が行われる体制を作り上げる。

### ポイント4 組織的な取組推進と教職員間での認識の共有

- ・校内委員会や校内分掌等に位置付けて組織的に推進していく。
- ・新しい取組を進める際、教職員全体が他校の実践を参考にして、『生徒の成長のために何ができるのか』『できるためにはどうしたらいいのか』という認識を共有する。

### ポイント5 学習成果の発表機会の設定

- ・生徒は発表を機に考えがまとまり表現力も向上するため、アウトプットの機会の効果的な設定を検討する。さらに、発表の場に地域の方々や報道関係者等を招くことで、生徒にとってチャレンジングな舞台となると同時に、学校の情報発信の有効な機会にもなる。発表会の会場を一般の方々が集まりやすい市町のホールや文化会館などにする事で、生徒の一層の成長にもつながる。
- ・成果発表会で地域、関係者、生徒、教職員からの評価を得ることで、生徒の意欲の向上や、次年度の活動の改善につなげることができる。

### (3) 校内推進体制の構築

#### ポイント1 複数の教職員が協力した組織的な運営

- ・窓口になる教職員を中心としながら、校内分掌、担任団等で組織的に協力する体制をつくったり、生徒のグループごとに担当の教職員を配置したりするなど、校内で役割を分担しながら進める。
- ・定期的な会議や資料の回覧など、情報や進捗状況を共有する機会を設ける。

#### ポイント2 使用した資料や地域との関わりの状況を共有

- ・毎年度の活動になることを見据えて、地域と連携する際の注意点などの情報について共有するとともに、引き継ぎ資料を残す（学校の担当者が交代しても、地域との関係は変わらない）。
- ・発表の仕方や資料作成のポイントに係る資料など、他校の取組も含め汎用性のあるものは学校の枠を越えて共有し活用できるようにする。

#### ■教職員の声

※教職員の声…各実践パイロット校のキャリア教育担当者に聞き取りしたもの。以下同様

##### 【体制の構築について】

- ・役割を分担することで効率的な運用ができた（窓口：教頭と総務部、費用の管理：事務部、各取組：コーディネーターや関係教職員）。
- ・推進委員会を設置して定期的に情報共有することで共通認識が深まった（構成員：校長、教頭、教務主任、進路指導主事、各学年キャリア教育担当、各系列担当、カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員）。
- ・教務主任が各学年の総合的な探究の時間の授業担当者として関わり、全体の調整役を担った。

##### 【推進の具体例】

- ・最初の数年で、数名のモデルとなる生徒を育て、他の教職員に対し「あの生徒たちのように育てていきたい」とイメージを共有できるようにしていくことが最も効果的であると感じた。
- ・「総合的な探究の時間」を持ち授業時間としてカウントし、担任・学年主任・その他の教職員を授業担当者とした。
- ・定期的（学期に2～3回）に担当者の打ち合わせを行い、授業の進め方を確認した。
- ・最終的な発表の場を、下級生に見せることが活動に対する理解につながった。
- ・他の教職員を巻き込んで実践していくということが最も苦勞するが、担当者自身が取組実践に前向きに取り組む姿勢がその推進力となる。
- ・取組の企画から実施までコーディネーターに支援いただき、学年団が一緒になって進めていく体制が整った。
- ・フィールドワークや校内の成果発表会、ベンチマーキングなどに、担任や副担任、さらには授業時間が空いている教職員が積極的に関わった。

## (4) 地域等との連携

### 【各自治体からの人材の派遣等】

(市町職員や地域おこし協力隊の役割)

- ・ 地域資源を探す際の情報収集のサポート
- ・ 生徒が地域の現状や課題を知るための講演会の講師としてサポート
- ・ まちづくりの視点からの全体を俯瞰した計画立案や取組の方向性の調整 等

※その他：コーディネーターの役割

- ・ プレゼンテーション力やモチベーションを高めるためのワークショップ等の実施 等
- ・ 発表会の準備に関わる支援（発表場所、当日の日程、有識者、招待客、メディア等の調整支援）

### 【大学等高等教育機関からの協力】

- ・ 専門的な分野の教授等からの講話
  - ・ 地域の企業の方をはじめ、観光協会、商工会、自治会等の魅力的な人材からの講話
- ※オンラインにより遠隔地の人材の協力が得られやすくなっている

### 【その他】

- ・ 地域の企業の方の協力によるフィールドワーク、インタビュー等の実施
- ・ ICTの活用もふくめた、他地域の高校との連携・協働による取組の実施

### 【地域との連携：具体的な協力例】

#### ・ 飯南高校の事例

松阪市飯南・飯高地域振興局、市教委等が地域のフィールドワーク、インターシップ等の調整や生徒の問い合わせ等に対応。また、市から派遣される地域おこし協力隊との協力体制を構築。

#### ・ 鳥羽高校の事例

鳥羽市役所や地域おこし協力隊等が、学校選択科目「鳥羽学」の授業における地域との連携や授業で支援。特に海女文化や商店街のPR 動画作成など。

#### ・ 昴学園高校の事例

大台町職員の協力による地域の企業等が、1年次の「産業社会と人間」の授業をはじめ、フィールドワークや防災体験、学校PR 動画作成などを支援。また、地域のイベントや課外活動への企画・提案や現地までの町営バスによる送迎など、生徒たちの学びの場の機会を創出。

## ■ 教職員の声

- ・ フィールドワーク等の地域での活動をする際には、単発のイベントにするのではなく、通常授業との学びの連続性を持たせることや、地域での体験に軸足をおくことで学校の枠を越えた学びとすることが大切である。
- ・ 「テーマを設定し、仮説を立て、研究計画を作成し、分かったことをまとめ、外部に発信する」という学習活動を進めることは、生徒にとって極めて貴重な体験となる。フィールドワークやアンケート・インタビュー調査を教室での学びよりも意欲的に取り組む傾向があり、中には自走して活動する生徒もあらわれるなど、本来の意味での「探究」もできていた。また、大学等高等教育機関への進学希望者もこのような活動により主体的な探究につながり、大学で学ぶ意欲が高まる。AO 入試や推薦入試の対策としても効果的である。
- ・ 教職員が教えるというよりは、どのように生徒の学びをサポートするかという視点で取り組んでいる。また、教職員自身もこの授業を楽しみ、どのようにしたらもっと面白くなるかを考えていけるとよい。

## (5) 地域課題解決型キャリア教育の進め方

### ステップ1

### 教職員が地域を知る・地域とつながる

#### ■具体的な行動

- ・教職員が地域を知る・地域とつながる。

重要！

#### POINT

- ・異動当初や新規採用の教職員は学校周辺の状況に詳しくない場合も多い！  
地元出身や勤務年数の長い教職員から地域の情報を聞けると◎

- ・これまでの取組や他校の取組から学ぶ。

#### POINT

- ・教職員の現場での経験や参考になる他校の事例は多数！これまでの取組から踏襲する部分、ブラッシュアップする部分、オリジナルで取り入れる部分など、今後の取組の大まかなイメージを膨らませる。  
前年活動した生徒からも直接聞けると◎

- ・授業の進め方、体制面を整理する。

#### POINT

- ・対象とする学年やその生徒数、担当する教職員のこれまでの経験などをふまえ、生徒の活動内容や教職員の関わり方などを調整する。  
例：学年共通で同じテーマで活動し、教職員がクラス単位で担当し進捗を把握する。  
例：活動分野について生徒から希望を募り、分野毎に担当を配置しそれぞれで活動を進める。

#### ■教職員の声

- ・地域住民とのより良い関係づくりにおいては、とにかく顔と顔を合わせることが効果的であった。また、教職員だけで進めるのではなく、生徒も一緒に現場に赴くことで、地元企業や行政の方々に協力していただきやすくなるように感じた。
- ・「生徒の送迎」や「生徒に伴走できる大人の発掘」など、学校側が悩んでいることでも地域に投げかけるとすぐに解決できることがある。学校だけで抱え込まず、胸襟を開いて地域に相談することも必要だと感じる。
- ・学校と地域とが Win-Win の関係を築かないと長続きしない。長い時間をかけて信頼関係を形成していくことが重要である。また、大学や企業の出前授業等を効果的に活用することも考えられる。

## ステップ2

## 生徒の成長をイメージし授業を組み立てる

### ■ 具体的な行動

P21 参照

- ・ 年間計画表を作成する。

#### POINT

- ・ 授業の方針・スケジュールを具体化して、「年間計画表」に反映させる。

他校の年間計画表を参考にしながら構築するのも◎

他校の先生とつながり、横の連携を強化することも◎

- ・ 課題の設定を行う。

#### POINT

- ・ オリエンテーションにおいて1年間の授業の流れを説明。地域学習の導入のために、市町の職員から地域の現状と課題について講演してもらうことも考えられる。

⇒生徒には「地域課題」という言葉でマイナスのイメージを植え付けることも危惧されるため、ポジティブなイメージで地域について学ぶ必要がある。

例：「〇〇市の良いところを知る」として、グループで地元のいいところを探して、議論することも考えられる。

- ・ 課題の設定にじっくり時間をかけるほうがよい。教職員があらかじめ観光、漁業振興、商店街活性化などテーマを設定することも考えられるが、できるだけ生徒がグループでの話し合いの中で、自ら決定したほうがよい。

- ・ 取組のお題は身近なところに！別の学科でのつながりや教職員のプライベートのつながりが取組に発展する場合も多数あり。

- ・ 最終的に生徒に選ばせることを考え、テーマをできるだけ多く挙げるとよい。

- ・ 協力していただく企業・地域の方々への調整を行う。

#### POINT

- ・ フィールドワーク、講演会、インターンシップ等、地域の方々にごどのような関わり方をしてもらうか考え、依頼する。

授業の方針、育てたい生徒の姿を共有し理解してもらうことが大切。

重要！

### ■ 教職員の声

- ・ 校内だけでは発見できない生徒の長所や能力が地域の大人と接することによって見えたり、取組によって急成長する生徒があらわれたりした。そのことを引率した教員が目の当たりにすることで、「地域へ学び場を広げることは生徒の成長のためになる」という認識が校内で共有された。
- ・ 学校は、生徒の活動について必要以上に型を示してしまわないほうがよい。発表の流れを配布した結果、そのとおりに律義に作る生徒や、同じようなタイプの発表が続き、表現のオリジナリティが見えなくなってしまった。




## ステップ3

## 生徒が地域での体験活動を通じて探究する

### ■具体的な行動

- ・生徒の主体性を伸ばす工夫をする。

#### POINT

- ・フィールドワーク等での目的を確認したうえで、質問事項を考えるなど、生徒たちが自分事として考えることのできるように導く。 
- ・フィールドワーク等では事前準備等を入念に行い、できるだけ生徒が主体となって行動できるようにする。

#### フィールドワーク

：1班5～7人ほどで、地域の事業所等を訪問し話を伺う。簡単な体験もさせてもらうことも。授業変更し、半日または1日かけて実施することも。

#### インタビュー

：地域の事業所等へ訪問し、企業の方や職業人から話を伺う。

または、学校に企業や地域の方を複数招いて少人数で話を聞くことも。

- ・大人たちがすべて用意してしまうと生徒たちは「やらされている」という感覚になることがあるので注意が必要！
- ・作成した計画は大切であるが、計画通りに進めることを意識しすぎず、生徒の取組状況に応じて臨機応変に対応することが大切である。
- ・普段の学校ではできない地域での体験活動を長期休業中に集中して行うことも可能である。

- ・他校や他地域との交流を行う。

#### POINT

- ・他校や他地域との交流・連携を行うことで取組を発展することができる！
- ・興味深い授業があれば、担当者へ直接連絡し、視察や情報交換を行うことで、授業が充実するだけでなく、横とのつながりも強化できる。

### ■教職員の声

- ・生徒からの相談や質問については、「とりあえずやってみては？」という返答がよい。行動させることが大事で、多少無理そうな内容であっても、一度体験させてみることは、仮に失敗であっても生徒にとっては大切な学びになる。
- ・1・2年次はこちらから各グループにテーマを割り振り、地域の様々な課題について「知る」、「考える」ことができるようにした。3年次には自分たちで研究テーマを設定して探究活動を行うことで、効果的に進めることができた。
- ・フィールドワークについて、最初は地域・場所・出会う人を教職員が設定したが、翌年度には地域だけは固定し、場所や出会う人は生徒任せにした。そうすると教職員が想定した以上の出会いが起こり、振り返りからはより自分事になっていたと感じられた。
- ・生徒自ら事業所へのアポイントを取る経験させておくとより成長につながる。ただし、電話のマナーについては、事前指導が必要である。

## ステップ 4

# 成果発表会を実施する

### ■ 具体的な行動

- ・ 発表の機会を多く与える。

#### POINT

重要！

- ・ 「場数を踏むこと」でプレゼン能力が一番向上できる。小さな成功体験を積み重ねることができるよう、できる限り多く発表を！

例：発表練習→ クラス内中間発表→ 発表練習→ 学年内での発表→ 成果発表会

- ・ 成果発表会の持ち方

#### POINT

- ・ 発表自体が目的とならないように、生徒が自らの考えや研究成果を整理したり、効果的な表現方法を工夫することを指導していく。
- ・ 最終の成果発表会はできる限り学外で行う（市民、町民ホール等）。

生徒にとって貴重な経験となり、大きな成功体験につながる。

- ・ 協力していただいた関係者や地域の方々等への呼びかけ

#### POINT

- ・ お世話になった地域の方々へのお礼の意味も込め、フィールドワーク等で協力いただいた方や企業等を発表会に招待する。地域の方々に生徒たちの成長を見ていただくことで、次年度以降もつながりを持つことができる。
- ・ 教育委員会関係者や有識者にコメントや講評を依頼したり、生徒自身が評価しあったりするなど、生徒にフィードバックできる仕組みがあるとよい。

- ・ メディアへの情報発信

#### POINT

- ・ 学校の取組の PR や外部への情報発信のため、新聞社やテレビ局などのメディアへ情報提供を行う。
- ・ 学校 PR にもつながり、生徒の取材対応の機会となるよい経験となる。

### ■ 教職員の声

- ・ 生徒が取り組んだ活動内容を成果物としてまとめることで、協力いただいた地域や行政への報告書にもなる。
- ・ 「原稿を見ないで1分で発表をする」という練習を、いろいろなテーマで行った。何度も行っているうちにほとんどの生徒ができるようになった。
- ・ 成果発表会に行政や地域の方々を招いて学校の取組を紹介しておく、新たな交流やヒントを得ることができる。
- ・ 成果発表会が卒業する3年次の先輩から1、2年次へのメッセージとして受け継がれるようになったのはよかった。
- ・ 発表やスピーチ、レポート作成等が苦手な生徒もいたが、ワークシートなどを用意して、段階的に繰り返し取り組み、次第にできるようになった。

## ステップ5 振り返り・評価を行う

### ■具体的な行動

- ・必ず生徒と振り返りを行う。

#### POINT

- ・最終の発表会終了後、必ず振り返りを行う。

レポート形式よりも、一言でもいいので声に出してアウトプットさせることが効果的！生徒全員が発表できるようにするとさらに◎  
他の班の発表の評価など、生徒間でフィードバックしてもよい。

重要！

- ・評価を行う。

#### POINT

- ・最終的な発表の出来だけでなく、いろいろな角度から評価を行う。

例：(定量的評価) 事業所先へのアンケート、生徒間の評価アンケート  
(定性的評価) グループワークでの役割を意識した動き  
生徒主観での授業をとおしての成長 など

- ・次年度計画表を作成する。

#### POINT

- ・生徒、地域の方々などの声を参考に、教職員間で振り返りを行い、年間を通しての成果を記録する。

今後のカリキュラム構築にあたり参考となるよう記録として残すことが重要。  
他校の年間計画表をみて参考にしても◎

### ■教職員の声

- ・評価は、個人点（主にレポート、取り組みへの態度）とグループ点（主に成果物）の2つを軸に行った。
- ・インターンシップ先の事業所や地域の事業所の方々に向けた生徒の活動状況についてのアンケートの結果を評価に反映した。
- ・定性的評価を実施しており、活動をとおして何ができるようになったかを記述している。
- ・授業で年2～3回の発表を行っており、いくつかの観点を設定しグループフォームを用いた生徒同士の相互評価を行っている。
- ・生徒一人ひとりが「総合的な探究の時間」用のファイルを持ち、収集した資料やレポート、発表資料等をポートフォリオとしている。年度末にはそれらをもとに個人で研究レポートを作成し、評価材料としている。

## (6) 『授業での活動』をふまえた年間計画 (例)

### 共通

#### 授業目的の理解を深め、生徒のモチベーションアップを!

題材は地域の課題解決としているが、活動の本質は『生徒の成長』!  
生徒の意見を否定せず、前向きに挑戦できる雰囲気の中で、生徒が自己肯定感・達成感を感じられる活動につなげることが大切。

### 1 年次 (第1段階)

#### 『地域を知る、地域に浸る』

地域で活躍する方々からの話を聞いたり、地域で体験的に学んだりする中で、生徒は自分の将来を見据え、客観的に自分自身を見つめ直すことができます。「地域を知る」ことと同様に「自分を知る」ことが重要であり、その中から自身の興味・関心の高い課題へより深く探究を進めることができます。また、課題は大人から与えられるのではなく、十分に時間をかけて自分自身で発見していくことが重要です。

#### 見て感じる 体験して気付く

4  
5  
10月頃

地域の魅力や  
特徴を認識

活動例

- ・オリエンテーション ・調べ学習 ・フィールドワーク
- ・学校に行政や地域の方々を招いての講話 など

ポイント

- ・話を聞くだけでなく、会話が生まれる工夫（質疑応答以外にも引率の先生が話を振って会話を引き出すなど）
- ・複数の講師や訪問先を設定し、1 グループの生徒が少人数になるように調整すると◎

#### 他者の意見を聞いて考える

7  
8  
11月頃

感じ方・考え方の  
違いや共通部分を実感

活動例

- ・個人での学びや感想のまとめをグループで意見交換
- ・必要に応じてもう一度フィールドワーク

ポイント

- ・一部の生徒だけでなく全員が発言できるようサポート
- ・他者の意見を否定しないなどのルールの設定 など

#### まとめる 表現する

10  
11  
2月頃

手段を学びながら  
人に伝える工夫を  
模索

活動例

- ・グループで発表資料を作成（プレゼンテーションソフト、ポスター）
- ・教職員等が資料作成のアドバイス

ポイント

- ・各生徒に役割を持たせた進め方（生徒間の協力を促す）
- ・過去に上級生が作成したものや、他校で作成したものなど、具体的な成果のイメージを生徒と共有。

#### 発表する 評価を受ける

1  
2  
3月頃

2 年次へ  
(その他有志で  
課外活動など)

活動例

- ・学校内外での成果発表会
- ・フィールドワーク先への報告

ポイント

- ・発表の機会を複数回設ける（クラス内・学年・全校）。
- ・関係した地域の方々を招いてコメントをもらう。
- ・伝えたい内容やポイントを整理し、原稿を見ずに発表することをめざす。

## 2 年次 (第2段階)

### 『地域を体験し、考える』『課題を発見し、考える』

探究的な活動は、グループ活動の中で生徒同士が協働的に学び合うことから始めることが望ましいですが、探究の学びが深まるにつれて個人での活動に移行していくことが考えられます。教職員は生徒とともに考え、伴走していくことが重要であり、生徒の学習意欲がさらに向上（「生徒の探究心にスイッチが入る」「生徒の心に火が付く」状態となる）すれば、生徒が自走しはじめ、より主体的な探究活動として深化していきます。

#### 体験する 社会に関わる

活動例

- ・通年または長期休業中のインターンシップ、体験活動
- ・行政や地域の方々へのインタビュー など

4  
～  
10月

#### 地域の課題 を認識

ポイント

- ・「何をするために」、「何を聞きに行くのか」目的意識を持たせる（ネットで調べて分かるようなことは予め整理）。
- ・生徒が自分自身の将来をイメージしながら、地域と関わるようサポート

#### 課題を見つける 解決策を考える

活動例

- ・経験したことをワークシート等で整理
- ・課題に対する解決策の仮説を考察
- ・他地域や県外の先進事例を調査
- ・必要に応じて再度フィールドワーク

7  
～  
11月頃

#### 課題解決策を 他者と検討

ポイント

- ・生徒の気づきを尊重（教員が主導しすぎない）
- ・体験を通じ、感じた疑問をきっかけに課題を設定、もしくは地域が感じている課題を聞き出して活動テーマに設定

#### まとめる 表現する

活動例

- ・グループで発表資料を作成（プレゼンテーションソフト、ポスター）
- ・教職員等が資料作成のアドバイス

10  
～  
12月頃

#### 手段を学びながら 人に伝える工夫を 模索

ポイント

- ・過去に上級生が作成したものや、他校の作成したものなど、具体的な成果のイメージを生徒同士が共有
- ・プレゼンテーションソフトの文字量を極力少なくし、プレゼン資料として載せる情報と口頭の情報の区別を意識

#### 発表する 評価を受ける

活動例

- ・学校内外での成果発表会（市町役場など行政へ提言・イベントや各種大会等への出展も）

1  
2  
～  
3月頃

#### 3 年次へ (その他有志で 課外活動など)

ポイント

- ・1年次は『報告』に近いが2年次は『ディスカッション』を意識した進行（関係者、生徒の質疑応答を増やす等）
- ・原稿は作成しても発表時は見ずに自分の言葉を使って発表
- ・活動の成果を大会等にて発表し外部の評価を受け、視野を広げたり刺激を得られたりする機会があると◎

### 3年次 (第3段階)

## 『課題解決策を探究し、行動する』

実社会や実生活との関わりから自己の問いを見だし、自分で課題を設定し、解決に向けて考えることができる力を身につけることをめざします。自己の在り方生き方を考えながら取り組むことで、生徒は教科等で身につけた力を課題発見・解決の経験の中で生かし、自分自身の進路探究につなげます。

### 体験する 社会に関わる

4  
～  
10月頃

地域の将来を自分事として捉える

活動例

- ・行政や地域と連携した取組
- ・フィールドワーク等

ポイント

- ・2年次での活動を発展させた内容や、上級生から引き継いだ内容に取り組み、より継続的な学びにつなげる。
- ・就職先や進学先の分野に関連するような内容や、自身の得意なことを伸ばす、苦手意識を克服するような内容にできるとよい。

### 課題を深掘りする 解決策を実践する

7  
～  
11月頃

課題解決に向け  
行動する

活動例

- ・自らの仮説の分析や検証を実施
- ・地域と連携した商品開発
- ・地域イベントへの参加
- ・先進事例視察 など

ポイント

- ・地域や行政のニーズもふまえながら検討した内容を形にするところまで進められるとよい。
- ・モノを作って終わりではなく、その活用方法なども含め本来の目的を見失わないようにする。

### まとめる 表現する

10  
～  
12月頃

手段を学びながら  
人に伝える工夫を  
模索

活動例

- ・グループで発表資料を作成（プレゼンテーションソフト、ポスター）
- ・教職員等が資料作成のアドバイス

ポイント

- ・必要に応じて動画等も活用しながら、表現方法の工夫を考える。

### 発表する 評価を受ける

1  
2  
～  
3月頃

卒業後を見据えた  
活動へ

活動例

- ・学校内外での最終成果発表会  
(自身の研究の発表や、各自治体の首長等へ地域活性化の提言を行うなど)

ポイント

- ・生徒自身の将来や進路をふまえ、これまでの研究や今後の地域課題の解決策等についての成果をまとめて発表し、高校3年間を通じた自身の学びの集大成と位置付ける。

## (7) 『課外活動』の流れ

部活動・生徒有志など

さらに興味・関心を持った生徒が自主的に活動できる受け皿づくり

生徒を募る  
生徒へ提案する

少人数で可

【参加が予想される生徒】

- ・入学直後の部活動を選ぶ時期に、高校で新しいことにチャレンジしてみたいと思った生徒
- ・講演会などをきっかけに、自分を変えるため行動してみたいと思った生徒
- ・授業等を通じ、地域での活動により関心を持った生徒
- ・先輩や他校の活動から、自分でもやってみてみたいと思った生徒など

課外での  
活動方法を検討

体制は校内で  
検討

【活動内容は様々！】

生徒とともに考え、行動できる教職員が担当になるとよりよい

■「授業以上、部活未満」の生徒有志での集まりによる活動

例：昴学園、紀南高校 など

■既存の組織（生徒会や部活等）へPBLの視点を追加して活動

例：志摩高校美術部・生徒会、飯南高校応援団 Circle など

■部活動・同好会の1つとしての立ち上げ活動（SBPなど）

例：南伊勢高校南勢校舎 SBP、南伊勢高校度会校舎 SBP

活動を開始

スモールスタート  
でまず動き始める

【まずは他校を参考に、真似ることからはじめる】

■生徒とともにどのような取組にするかを考える

⇒既に活動をしている他校の取組を参考にする、その学校とつながり話を聞いてみる（対面・web）

「ないものねだり」ではなく、「あるもの探し」を心がけ、地域を題材に何ができるかを考える

■地域との関わりを濃く

⇒協力・相談に乗ってくれる企業・団体、地域住民、行政など、活動の輪を広げるとともに認知してもらう（学校の中だけの関わりで完結させない）

■生徒の成長にはたくさんの『交流』を

⇒地域の大人と生徒の交流、他校との生徒同士の交流、教職員同士の交流など

活動を発展

【イベントや大会に参加・見学】

順位を気にするのではなく、発表や交流の機会を増やすことを意識する

（地域との関わり方や活動の進め方の参考にも）

例：『全国高校生 SBP 交流フェア』『観光甲子園』

『ご当地！絶品うまいもん甲子園』

【他校・他地域とのコラボ】

例：白山高校・浜松学芸高校『胸キュンプロジェクト』

：紀南高校、南伊勢高校度会校舎、松阪商業高校

『道の駅のプロジェクトマップ協働制作』

※参考【地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業で実践パイロット校が使用した年間計画表】

令和〇年度

地域課題解決型キャリア教育 年間計画

( 三重県立〇〇 ) 高等学校

No、( 1 )


対象生徒	( 2 )年 ( )科・コース・系列 (〇〇)人	地域の活性化に貢献する活動	生徒個人の興味に基づいて選択したコースにおいて、地域についての学びを深め課題解決をめざす。グループごとに解決策やPR方法を考え、地域の方々をまねく成果発表会でプレゼンをする。
科目名等	( ) 単位数( 1 )		
科目授業時間	毎週( )曜日 ( )限目( )～( )		
育てたい生徒の力	地域の方々との関わりをとおして、自分たちに何ができるのかを考えた上で実践につなげる。地域に貢献する力、主体的に課題解決に取り組もうとする力を身につけさせることで、豊かな人間性を育む。またグループワークをとおして、他者と協力する力やコミュニケーション力を身につけさせ、発表をとおして自分の考えを人前で話すプレゼンテーション力を養っていく。	課題設定の方法	「高校生が地域を盛り上げます」というテーマを軸として、課題解決型の学習を進めていく。グループで話し合いをしながら、地域課題について見解を深めていく。そして、グループごとに発表内容やその方法について考え、動画やポスターなどの作成を行う。またホームページの工夫や報道提供など、効果的な情報発信をしていく。

一学期	夏季休業	二学期	冬季休業	三学期
・4月 オリエンテーション (コーディネーターがサポートし、キャリア教育担当者が実施)  ・4月 外部講師による講演  ・4月 課題の設定 グループで話し合い、課題を設定  ・5月～6月 課題別の活動をスタート 調べ学習、話し合い活動、フィールドワーク		・9月～11月 課題別の活動 調べ学習、話し合い活動、フィールドワーク  ・9月～11月 PR動画作成ワークショップ  ・10月～11月 スライド作成ワークショップ  ・12月 予選会		・1月～2月 振り返りとまとめ  ・1月～2月 成果報告や広報活動  ・1月 成果発表会

■ 『年間計画表』

年度当初、科目等の単位で、育てたい生徒の力、活動内容や活動時期を記載。年度末には1年を振り返り次年度の活動の改善につなげる。

取組の成果	
①生徒の成長	
②教員側の意識の変化等 (担当者本人、教員全体など)	
③地域からの声・反響など	

全体をとおしての振り返り	
当初想定していた内容よりも『良かった部分』	 ・こうすればより上手いく(発展する)かも！ ・このようなアイデア ・こういときはこうした方が良い！というようなポイント
当初想定していた内容よりも『上手いかなかった部分』	

進め方の工夫・留意点等	
指導方法	
校内の推進体制	
地域や行政との連携	
ICTの活用	
評価方法	

その他、写真等



## 4. 参考資料

### (1) 実践例 【実践パイロット校の3年間の取組を整理】

【普通科】三重県立白山高等学校（※普通科・情報コミュニケーション科）

#### ■育てたい生徒の力

##### ①「総合的な探究の時間」（3年次）

JR 名松線や同線沿線の観光資源などについて調べることで、同線および地域の文化や産業について知る。地域でのフィールドワークをとおして、地域社会に愛着を持ち、地域に貢献できる力を養う。また、自ら課題を設定し課題解決に向けて主体的に行動する力、他者と協力・協働する力、社会的自立に必要な能力など、豊かな人間性を育む。

##### ②「総合的な探究の時間」（2年次）

地域の方々との関わりをとおして、自分たちに何ができるのかを考えた上で実践につなげる。地域に貢献する力、主体的に課題解決に取り組もうとする力を身につけさせることで、豊かな人間性を育む。またグループワークをとおして、他者と協力する力やコミュニケーション力を身につけさせ、発表をとおして自分の考えを人前で話すプレゼンテーション力を養う。

#### ■授業の概要（令和3年度）

時期	学科・系列	人数	授業名	単位数
2年次	学年全体	79人	総合的な探究の時間	1
3年次	普通科選択	7人	総合的な探究の時間	2

#### ■大まかな流れ

##### 【2年次】

2年次全員が6つのコースに分かれ、地域での活動・学習を実施（令和3年度年度のコース設定）

##### （ヒト・モノ・シゴト コース）

- ・コミュニケーションスキルやグループ協議のトレーニング、新聞を利用した学び等
- ・地域で活躍する方々との出会い学習
- ・地元事業所へのインタビュー訪問（電話依頼・事前準備・事前指導）  
⇒地元で働く方々と触れ合い、課題解決のために自分たちができることは何かを考える。事業所のPR動画づくりやスライド作成等のワークショップを実施。コース内で予選会

##### （福祉コース）

- ・課題設定
- ・担当者による授業：手話を学ぶにあたっての心構えなど
- ・手話の講師による手話講習（計7回）等
- ・発表に向けた準備（パワーポイント作成・発表練習）

##### （農業コース）

- ・地元の白山・美杉について自分たちで調べる
- ・地域特産物の生産者の方からの講演
- ・名松線に乗り「奥津」へフィールドワーク
- ・地域の特産の黒豆、美杉茶を使った料理を研究⇒地域の事業所の方の指導を受ける

##### （ゆるキャラコース）

- ・大人気ゆるキャラのプロフィール調べ：「しかずきんくん」のプロフィール考案
- ・『地域を盛り上げる活動について』地域の方からの講演
- ・LINEスタンプづくり

##### （観光コース）

- ・観光の意味を考えるワークショップ。地域を取材して魅力を再確認、発信へ
- ・白山町の基本知識・数値・歴史について調べ、観光資源を探し、PR方法を考える
- ・地域へのフィールドワーク、取材

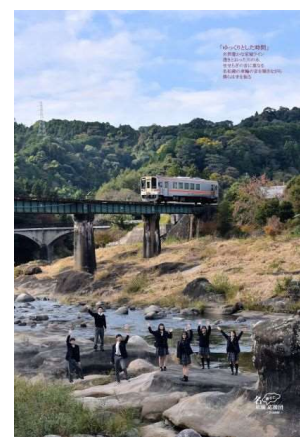
### (討論コース)

- ・身近なテーマや地域をテーマとしたディベート等を毎週実施  
(活躍できる社会人とはどういう人か。名松線の利用客を1日100人増やす方法など)
- ・成果発表会に向けた動画作成、プレゼンの練習等
- ・振り返り活動

### 【3年次】

総合的な探究の時間の1コースが名松線の魅力の発見、発信を行い、地域活性化に向けて活動する。

- ・オリエンテーション：『名松線勝手に応援団』第2期生の立ち上げ、活動計画作成
- ・ポスター制作活動：名松線の各駅を巡回および撮影活動・写真選定、キャッチコピー作成
- ・地元小学校や高田短期大学との協働プロジェクト（ポスター制作活動）
- ・プレゼン発表に向けた準備：パワーポイント資料の作成・発表練習
- ・ポスター完成披露会
- ・東京の三重テラス『つデイパネル展』でギャラリートーク実施
- ・紀南高校との交流活動
- ・成果発表会



## 【普通科】三重県立南伊勢高等学校南勢校舎

### ■育てたい生徒の力

#### ①「総合的な探究の時間（輝ひ）」

地域に学び、地域に根ざしつつ、広い視野で自己の在り方生き方を考える。「確かな学力」を身につけ、何事にも意欲的に取り組む。社会性を身につけ、周囲から信頼される生徒。自然を愛し、「健全で豊かな心」を持ち、お互いを尊重しあう。ワークショップを通じて、自分の意見を述べる力を育てる。

#### ②「地域探究」

郷土の産業や文化を知り、地域の方々と関わることにより豊かな人間性を育む。

#### ③「インターンシップ」

地域産業の現状をふまえ、地域の中で就業体験を行い、社会に関わる意識を高めるとともに、働くうえでの課題を自己の問題と捉え、解決しようとする力を育てる。これらをとおして、自己理解・自己の成長と社会性を養う。

#### ④「地域課題研究」

地域が直面する様々な困難に対し、地域と連携・協働し地域創生を進めるリーダーを育成する。

#### ⑤SBP 活動（課外活動）

南伊勢町と連携し、若者が地元に残って就職できる仕組み作りを目指す。また、地域の産業や実情を学びながら、商品開発等ビジネスの手法で、課題発見・解決する力の育成を目指す。など

### ■授業の概要（令和3年度）

時期	学科・系列	授業名
1年次	学年全体	総合的な探究の時間（1単位：7人）
2年次	学年全体	地域探究（1単位6人） インターンシップ（6単位3人）
3年次	地域創生アドバンスコース	地域課題研究（2単位3人）

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】

##### ①輝ひ

- ・講演会「キミ達の可能性は無限大」（皇學館大学教授）
- ・動画ワークショップ「あなたにとって●●は■■である」（同大学教授ほか）
- ・講演会とグループワーク「7人でできるアイスブレイキング」（同大学教授ほか）
- ・動画制作・アイスブレイキング「自己紹介動画を作ろう！」（同大学教授ほか）
- ・防災特別授業（南伊勢町防災安全課、他4回）  
※防災研修「大阪阿倍野防災センターあべのタスカル訪問」〔1・2年合同〕（町防災安全課）
- ・講演会とグループワーク（同大学教授ほか）
- ・防災特別授業（町防災安全課ほか）

#### 【2年次】

##### ②地域探究

- ・講演会「南伊勢町の現状と課題」（南伊勢町長） ・講演会「漁業」（友栄水産）
- ・中間発表（三重大教授）
- ・講演会「農業」（アサヒ農園）
- ・フィールドワーク「農業」（アサヒ農園） ・フィールドワーク「福祉」（社会福祉協議会）

##### ③インターンシップ

- ◆前期 4～9月【6回】 漁業（前期1人）、町役場関連・保育等（前期1人）、農業①（通年1人）
- ◆後期 10～2月【8回】 町役場関連（後期1人）、農業①（通年1人）、農業②（後期1人）

## 【3年次】

### ④地域課題研究

- ・フィールドワーク1「町の活性化①\_移住」（町まちづくり推進課、むすび目 Co-working）
- ・フィールドワーク2「町の活性化②\_歴史・観光」（町まちづくり推進課、愛洲の館）
- ・テーマ発表（校内）
- ・フィールドワーク3「町の観光（レジャー）」（日本ヘリス株式会社）
- ・フィールドワーク4「町の観光（文化）」（伊勢現代美術館）
- ・研究発表（南伊勢町長、三重大教授）

### 【その他（課外活動等、令和3年度の活動の一部を掲載）】

### ⑤SBP 活動

- ・地域のイベント（「たいみー焼き」の販売）への参加や「セレクトギフト」等の活動
- ・皇學館大学での講義 → 皇學館大学生に講義・発表
- ・全国SBP交流フェアに参加
- ・県内外の高校との交流
  - 一億円プロジェクト〔通年〕（全国から14校）
  - 三重県・中国河南省高校生動画交流会 三重県側「最優秀賞」受賞
  - 若者と考える自殺予防普及啓発事業「（通称）幸せプロジェクト」に参画
- ・ふるさと教育（南勢小・南島東小・南島西小）
- ・南伊勢町民文化会館で開催されるフォーラムに参加し、地域探究・インターンシップ等の成果発表会 など



## 【普通科】三重県立南伊勢高等学校度会校舎

### ■育てたい生徒の力

- |  |
|--|
| <p>①「総合的な探究の時間」（1年次）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について知り、地域の課題について課題意識を持ち、自分なりの解決策を考える力</li> <li>・地域交流をとおして、地域の課題について知り、自分たちの解決策を考える力</li> </ul> <p>②「総合的な探究の時間」（2年次）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流や講演をとおして、自分の進路について考える力</li> <li>・コミュニケーション能力、表現力</li> </ul> |
|--|

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
1年次	学年全体	38人	総合的な探究の時間	1
2年次	学年全体	34人	総合的な探究の時間	1

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】

- ・オリエンテーション
- ・講演会『度会町の現状と課題』（度会町より）  
グループワークも同時に実施
- ・講演会『地域で活躍されている方々の取り組みと度会町について』  
地元企業の経営者等4人からの講演
- ・度会町の課題について整理
- ・グループ別活動（フィールドワーク、発表準備等含む）  
①自然班 ②空き家班 ③グルメ班 ④PR班
- ・度会町教育委員会、町役場とも関わりながら活動推進  
度会探索ツアーを実施
- ・成果発表会

#### 【2年次】

- ・講演会 地域の方からの講演
- ・地域の交流学習に向けての班別活動  
①特別支援学校・保育所 ②社会福祉協議会 ③森林組合 ④ケアハウス・手話
- ・校内での体験発表会
- ・成果発表会

#### 【その他（課外活動等、令和3年度の活動の一部を掲載）】

##### SBP活動

- ・学校紹介動画を作成
- ・他校の生徒とオンライン交流
- ・図書館開放イベントにおいて、地域の子どもに向けてプログラミング体験会を開催
- ・皇學館大学で大学生に向けて活動発表
- ・SBP交流フェアに参加
- ・中国河南省との交流で度会町の紹介動画を作成



## 【普通科】三重県立志摩高等学校

### ■育てたい生徒の力

#### 「志摩学」（総合的な探究の時間：1～3年次）

- ・1年次から3年次まで全員が3年間総合的な探究の時間を活用した地域学習を進める。  
（地域を知って考える⇒地域の産業を体験して考える⇒地域課題の解決策について考える）
- ・特に『地域を愛し、地域社会に貢献できる力』『自ら課題を設定し、調査研究を行い、考察を深める力』『他者と協力、協働し課題解決のために主体的に行動する力』『自分の考えを効果的にプレゼンテーションする力』を鍛えることを念頭に、探究活動や発表練習を重点的に行った。

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
1年次	学年全体	51人	総合的な探究の時間	1
2年次	学年全体	72人	総合的な探究の時間	1
3年次	学年全体	100人	総合的な探究の時間	1

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】

学校が地域の課題と考えられるテーマを示し、個人の興味・関心に基づき、グループをつくり話し合  
って課題を設定して学習活動を進める。（自然環境、祭り、防災、医療福祉、人口減少）

- ・ **オリエンテーション**：目標やスケジュール等について説明
- ・ **ブレインストーミング**  
⇒「志摩の好きなところ/好きでないところ」グループワークを実施：  
**地域課題に前向きに取り組む姿勢を養う**
- ・ **事前学習 志摩市役所、地域の職業人による講話**  
⇒志摩市役所からは地域の現状や課題の提示等を行い、課題設定のベースとした。  
⇒地域の事業者から、自身の経験をもとに地域の産業や働く意味等を学んだ。
- ・ **課題の設定**：生徒がグループで課題設定と事前の調べ学習
- ・ **フィールドワークの実施（9～10月）**  
⇒市内にある様々な分野の事業所（10カ所あまり）でフィールドワークを実施する。  
フィールドワークのまとめ、礼状作成
- ・ **中間発表**：小グループでこれまでの研究結果を発表、質疑応答、相互評価
- ・ **各グループでの考察を深め、課題解決の方策を考える。**
- ・ **発表準備**：各グループでプレゼンテーション資料作成、役割分担、発表の練習
- ・ **クラス発表**：各グループ10分程度、質疑応答と相互評価
- ・ **学年発表**：クラス代表による発表
- ・ **学習成果発表会**：学年代表による発表
- ・ **個人レポート作成**

## 【2年次】

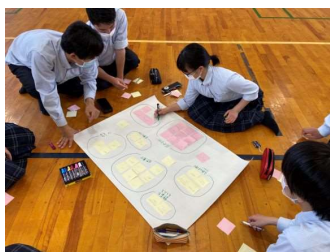
個人の興味・関心に基づき、産業別の研究グループをつくり、地域や地域産業の研究を進める。

- ・ **オリエンテーション**：目標やスケジュール等について説明
- ・ **ブレインストーミング**：「志摩市で働くということ」をテーマにグループで話し合い、発表
- ・ **事前学習**：志摩市職員（観光商工課）からの講演「志摩市の産業について」
- ・ **課題の設定**：生徒の興味・関心に基づきグループをつくり、図書館等で情報を収集する。
- ・ **インターンシップ or 事業所訪問インタビュー**（9～10月）※インターンシップは夏季休業中3日程度  
自己分析、自己紹介シートを作成、マナー講座を受講、インターンシップ先事業所との打合せ
- ・ **インターンシップまとめ、礼状作成**：個人で考察、グループ内で発表
- ・ **中間発表**：小グループでこれまでの研究結果を発表、質疑応答、相互評価
- ・ **各グループでの考察を深め、課題解決の方策を考える。**
- ・ **発表準備**：各グループでプレゼンテーション資料作成、役割分担、発表の練習
- ・ **クラス発表**：各グループ10分程度、質疑応答と相互評価
- ・ **学年発表**：クラス代表による発表
- ・ **学習成果発表会**：学年代表による発表
- ・ **個人レポート作成**

## 【3年次】

地域の魅力を発見し、その魅力を発信するとともに、未来に残していくための課題について考え、改善方法を提案する。

- ・ **オリエンテーション**：目標やスケジュール等について説明
- ・ **ブレインストーミング**：「30年後の志摩市はこんな感じ」をテーマにグループで話し合い、発表
- ・ **事前学習**：志摩市職員（SDGs未来都市推進室）からの講演「志摩市におけるSDGs推進の取組」
- ・ **課題の設定**：「未来に残したい地域のタカラ」を選定し、グループ別に図書館等での情報収集
- ・ **フィードワーク実施**（9～10月頃：市内20カ所で行った）：FWのまとめ、礼状作成
- ・ **中間発表**：小グループでこれまでの研究結果を発表、質疑応答、相互評価
- ・ **各グループでの考察を深め、課題解決の方策を考える。**
- ・ **発表準備**：各グループでプレゼンテーション資料作成、役割分担、発表の練習
- ・ **クラス発表**：各グループ10分程度、質疑応答と相互評価
- ・ **学年発表**：クラス代表による発表
- ・ **個人レポート作成**
- ・ **学習成果発表会**：学年代表による発表



## 【普通科】三重県立紀南高等学校

### ■育てたい生徒の力

#### ①「地域産業とみかん」（2年次選択）

紀南地域の特産品である柑橘類の栽培から流通までの過程やその関連産業など、この地域の「みかん産業」の現状と課題に関する学習を通じて、地域社会の一員として活躍できる人材の育成を図る。具体的には、地域産業に関する知識をみかん産業の関係者との対話等を通じて学び、コミュニケーション能力の向上を目指すとともに、学んだことから課題を発見する思考力を身につける。課題解決に向けた取組から課題解決能力を育成し、さらに考えたことを地域等に発信することで表現力の向上を目指す。

#### ②「東紀州学」（3年次選択）

所在地である南牟婁郡御浜町周辺の歴史・文化・産業・伝統工芸などの学習を通じて、地元地域への理解を深め、将来地域に貢献できる人材の育成を目指す。具体的には、地域の歴史に詳しい方や伝統工芸の技術を受け継ぐ方々など異世代との関わりの中でコミュニケーション能力を高める。また、学びを通じて地域の課題を理解し、その解決に向けて生徒間での対話により解決に向けた取組などを考え、発信する。その過程で、表現力や課題解決能力を高めていく。学びをとおして身につけた力を、将来の地域の活性化に活用できるようにする。

#### ③「総合的な探究の時間」（1～3年次）

防災面における地域課題を理解するとともに、災害時に高校生として果たすことが可能な役割を理解することで、地域防災に貢献する力を育む。

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
2年次	普通科選択	4人	学校設定科目「地域産業とみかん」	2
3年次	普通科選択	9人	学校設定科目「東紀州学」	2
1～3年次	学年全体		総合的な探究の時間	1

### ■大まかな流れ

#### 【2年次】（地域産業とみかん）

○柑橘類の特徴を理解し、年間をとおした季節ごとの栽培管理の概要などを外部の方の講義等を通じて学習する。また、摘果作業を通じてみかんの成長を学習する。

- ・柑橘栽培管理の1年についての講義
- ・紀南果樹研究室見学
- ・除草・芽かき・摘心作業・摘果作業・みかんの成長観察 等

○果実袋掛け作業、収穫作業、選果場見学などとおして、栽培の具体的な流れを学習する。また、みかん栽培における獣害対策や栽培されたみかんの加工についても学習する。さらに生産者の方から直接農業について話を聞くこととおして、みかん栽培を中心に地域の農業に関する課題を学ぶ。

- ・防除（紀南果樹研究室）
- ・みかん農家の経済状況についての講義
- ・選果場の見学・温州みかんの収穫
- ・ジュース工場見学（道の駅ピネ） 等

○季節みかんの収穫作業や生産者との意見交換とおしてみかん産業の課題等の学習を行う。

- ・様々なみかんの品種について学習。成果発表会での発表。

○三重大学大学院生物資源科学研究科 田丸研究室による講義を実施する。

- ・御浜町のみかんの廃棄物からできる燃料の有効活用等について、大学院生とオンラインで意見交換



### 【3年次】

#### （東紀州学）

○卒業生の研究を検討したうえで、地域へのフィールドワークを行い、地域の地理的・歴史的特徴について学習する。各人の興味関心にあわせてテーマを選び、班編成を行って学習を進める。

「紀州犬」「市木木綿」「ウミガメ」「熊野古道」等

- ・オリエンテーション・昨年度の活動の紹介
- ・ウミガメ公園の方による講義、ウミガメ公園へのフィールドワーク
- ・紀州犬についての事前学習、フィールドワーク
- ・インタビューの手法・プレゼンテーションの技術 等
- ・プロジェクションマッピング製作 等

#### ※【1～3年次】（令和3年度は全学年で実施）

- ・津波避難訓練（1年次：浅間山への避難）
- ・JR東海と連携した津波避難訓練
- ・1年次夏休みの宿題で「防災ノート」を活用
- ・御浜町合同防災訓練（元石巻西高校校長、齋藤先生によるワークショップ）
- ・学校防災ボランティア宮城県への派遣 等

#### 【その他（課外・他の関連する授業等）】

○道の駅との連携

- ・道の駅パーク七里空き店舗スペースにて、紀南高校生の芸術科目作品展を開催
- ・道の駅ウミガメ公園にて、ウミガメ公園PRのプロジェクションマッピング
- ・道の駅協議会と連携し、生徒会を中心に「紀南地域活性化プロジェクト」を企画。太平洋岸自転車道のPR 等



## 【総合学科】三重県立飯南高等学校

### ■育てたい生徒の力

自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる地域に根ざした人材

- ①地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力【対話力】
- ②地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力【追究力】
- ③自らの技術を磨き、他者とかがわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた取組や活動を創造する力【創造力】
- ④地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力【発信力】

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
1年次	学年全体	77人	産業社会と人間 + 各教科での学び	2
2年次	学年全体	75人	キャリアデザイン+各系列の学び+各教科での学び	1
3年次	学年全体	79人	いいなんゼミ（総合的な探究の時間） +各系列の学び+各教科での学び	3

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】

##### （産業社会と人間）

- 2回のフィールドワークをとおして自ら課題を設定し、解決する力を身につける。
- 4系列の体験をとおして、自己の進路について考える。
- 大学見学や企業説明会など充実を図る。
- 発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図り、発信力を養う。
- 飯南高校の掲げる4つの力（対話力、追究力、創造力、発信力）を身につける。
  - ・ワークショップ：仲間づくり
  - ・目標づくり：前年度3年次のいいなんゼミの発表を鑑賞
  - ・校長講話「なぜ地域で探究なのか？」等の講演を行う
  - ・地域の調べ学習（松阪・多気地域等）
  - ・フィールドワーク事前指導、作戦会議等
  - ・フィールドワーク（第1回） 飯南飯高地域の8地区を16グループで散策  
⇒ フィールドワークの活動内容について魅力マップを作成
  - ・キャンパスインターンシップ ⇒ 発表会
  - ・フィールドワーク（第2回）事前指導、作戦会議等
  - ・フィールドワーク（第2回） 第1回と別地区に行くことで、疑問や関心をさらに深める
  - ・第2回フィールドワーク発表会 関わっていただいた方々にも参加を呼び掛ける
  - ・かけ算プロジェクト ⇒ 発表会 関わっていただいた方々にも参加を呼び掛ける
  - ・企業講演会

## 【2年次】

キャリアデザインは、「産業社会と人間」と「いいなんゼミ」をつなぐ、地域課題解決型キャリア教育の中間点と位置付けている。企業見学会や外部講師による講演会での出会いや、インターンシップで仕事に触れながら、リアルに地域社会で生きることを考える力を身につけていく。また、修学旅行で得た知識を比較したり、楽しいなんゼミで考えを深め整理したりして、自己の在り方や地域との関わりを認識し、自分づくりを深めていく。

- ・楽しいなんゼミのテーマ設定

- ・楽しいなんゼミ（5～6月）

  - 聴覚障がい者との手話による懇談等

- ・キャンパスインターンシップ

- ・楽しいなんゼミ発表会 関わっていただいた方々にも参加を呼び掛ける

- ・第1回本気の大人講演会 ※地域おこし協力隊

- ・セルフインターンシップ（夏期休業中）：地域への職業インターンシップ  
（令和3年度は10社28名）

⇒ 発表会（2学期）関わっていただいた方々にも参加を呼び掛ける

- ・高校生と地元企業との交流会 ※連携中学校2年次も参加

- ・企業見学会

- ・第2回本気の大人講演会

## 【3年次】

いいなんゼミでは、生徒自らの興味・関心から個人のテーマを自由に設定し、1年間をとおしてそのテーマを調査・研究・作品制作・発表を行い、PDCAサイクルを取り入れた活動をとおして課題解決能力を養う。その過程で授業担当者以外の教職員も一丸となって、地域の方々や専門家の方々が生徒とつながれるよう促してマッチングを図るとともに、伴走者として指導・助言していただけるよう協力を依頼する。教職員は自走する生徒を育て、支援し、伸ばしていけるよう、地域の方々や専門家の方々と生徒の両者を支える役割としてのファシリテーション力が求められる。

- ・「いいなんゼミ」ガイダンス：担当教員とテーマ確認※教員一人につき、8～9人の生徒を担当

- ・年間計画書作成

- ・ゼミ内中間発表会、1学期研究活動報告書作成、夏休み活動計画書作成

- ・夏休み研究報告書作成、年間研究活動計画書の確認・修正

- ・いいなんゼミ報告書作成開始、発表会に向けてのPowerPoint作成、発表練習

- ・ゼミ内最終発表会、学年発表会、展示・実演・ポスターセッション準備等

- ・いいなんゼミ発表会

【その他（課外活動等、多数あり。令和3年度の活動の一部を掲載）】

・ 応援団 Circle の活動

- ・ （一社）未来の大人応援プロジェクトの企画（全国高校生1億円プロジェクト）に参加
- ・ 打ち上げ花火プロジェクト：約30社の企業等へ文化祭への協力依頼
- ・ 全国小規模校サミットにオンライン参加（山形県立小国高校主催）
- ・ 連携中学校文化祭での写真展開催、地域みらい留学での活動報告 等

・ 美術部の活動：緑茶ラテアート体験教室開催、茶畑アートプロジェクト（深緑茶房との共催）

・ 吹奏楽部の活動：ハナノキコンサート（学校のシンボルツリー前で開催）で地域の方々と交流

・ その他：飯南飯高地域で開催される高校生地域創造サミット2021で司会および地域紹介を担当  
など



## 【総合学科】三重県立昴学園高等学校

### ■育てたい生徒の力

- ①「産業社会と人間」（1年次）  
フィールドワークなどで得られた「学び」をICTを用いてプレゼンテーションする力  
地域の人々との関わりをとおして、職業に対する理解を深め、自らの生き方について主体的に考える力
- ②「ナイトスクール」（課外活動）  
働くことの意義、夢を持つことの大切さ、地域社会の一員として生きていくことの意味など、講師の講演を通して、自らの将来像について考える力
- ③「寮生ワークショップ」（課外活動）  
責任を持って最後までやりきる力  
仲間と協同しながら一つの目標に向かって努力する力  
計画を立てて、締切を守るやICTを活用できる知識と力
- ④「昴版自然環境リテラシー」（課外活動）  
体験をとおして自然の美しさを学び、そこから自然の保全、環境問題や持続可能な利活用を理解し考える力

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名
1年次	学年全体	59人	産業社会と人間（2単位）
2年次	学年全体	51人	国際交流系列・総合スポーツ系列・美術工芸系列
3年次	学年全体	58人	生活福祉系列・環境技術系列での学び

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】（産業社会と人間）

- ・大台町いいところ探し：町役場職員からの講義、町内企業の見学、地域住民との交流等を実施し、地域の魅力や地域が抱える課題を発見する。
- ・聞き書き講座：大台町の商工会青年部や地域住民の方々から自身の経験談を聞き、書き、30秒スピーチとしてまとめ、学年の発表会で発表する。
- ・防災体験：自衛隊の協力のもと、「自助」「共助」をテーマにグループ活動を実施し、活動の様子を動画にまとめる。まとめた動画は学習成果発表会で発表し、学校全体で共有する。
- ・書き方講座：履歴書作成等できれいな文字が書けるように、放課後に書道の先生からきれいな文字の書き方を学ぶ学習会を実施する。

#### 【2～3年次】※各系列での学び

2年次以降の総合学科の各系列（国際交流・総合スポーツ・美術工芸・生活福祉・環境技術）において、地域を題材とした発展的な学習につなげる。国際交流系列では、地域の課題解決策をグループで協議する「まちかつ」、環境技術系列では山林活動や林産物利用を考える学習、生活福祉系列では介護の諸問題を体験から学ぶ取組などを実施している。

#### 【生徒寮での活動】

- ・ナイトスクール：寮での夜間の学習時間を利用し、各地域で活躍する方々の講演会を実施
- ・寮生ワークショップ：寮でのイベント等で活用するプロジェクションマッピングの制作を実施
- ・昴版自然環境リテラシー：休日や放課後に大杉谷登山やホテル見学等、自然体験活動を実施 等



## 【総合学科】三重県立鳥羽高等学校

### ■育てたい生徒の力

#### ①「産業社会と人間」

- ・それぞれの進路実現に向けての基礎的・総合的な学力および社会的・職業的自立に必要な自律能力と態度
- ・地域や地域の職業人との関わりにより、地域理解力、課題発見能力や課題解決能力
- ・フィールドワークや成果発表によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力

#### ②「鳥羽学」（2年次選択）

- ・地域の歴史、文化、文学、環境、観光、外国との関係などの基本的な知識
- ・地域について多角的な視点での調査や分析を試みることによる課題発見能力や課題解決能力
- ・調査や各グループでの成果発表によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
1年次	学年全体	46人	産業社会と人間	2
2年次	文理進学系列	17人	『鳥羽学』（学校設定科目）	2

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】

- ・地域学習として答志島へのフィールドワークを実施
- ・国語の授業で「潮騒」を取り上げる
- ・職業人インタビュー
- ・2分間スピーチコンテスト
- ・神島フィールドワーク
- ・SDGs研修会

#### 【2年次】

毎週の授業時間に鳥羽市の職員の支援を受けている。

なかまち班では、地域住民のまちづくりと情報共有を行い、高校生の目線での情報発信等を考える。石鏡班では、地域の海女文化を学び、企業と連携してVR機器等を活用した海女文化の情報発信等や鳥羽市水産研究所のアドバイスを受けて地域の海についての課題解決等に取り組んでいる。

- ・海の博物館で館長および三重大学準教授より海女文化についての講義（全班）
- ・なかまち班のフィールドワーク（5月は全班）
- ・水産研究所班がフィールドワーク
- ・石鏡班のフィールドワーク
- ・石鏡班が連携企業からVR作成指導受講（オンラインも活用）
- ・（なかまち班）動画制作、なかまち集会所での発表（石鏡班）石鏡町集会所での発表
- ・校内での発表
- ・成果発表会



## 【総合学科】三重県立あけぼの学園高等学校

### ■育てたい生徒の力

- ①「産業社会と人間」  
地域の産業や歴史、文化などに触れる活動をとおして、地域の魅力や課題を発見し、地域で生きる自己の在り方を考える機会とする。【魅力や課題などに気づく力・発見力】、【社会のルールやマナーを守って行動する力】、【コミュニケーションを図る力】、【グループで協働する力】、【活動をまとめる力・思考力・表現力】を育成する。
- ②「家庭基礎」  
地域の伝統産業である「組紐」に触れ、実際に作品を制作することとおして、伝統産業の魅力に触れ、継承する意義を考える機会とする。【根気強く行う忍耐力】、【達成感や自信】、【伝統産業の魅力に気づき、継承する気持ちや誇り】を育成する。
- ③製菓調理系列「調理」「製パン」等  
地域の食材を使ったパンやスープなどの商品開発をとおして、地域の食材に誇りを持ち、魅力を生かした創作料理に取り組み、魅力を発信し、地域の食文化を継承する意識を持った人材を育成する。
- ④健康福祉系列「スポーツレクリエーション」  
伊賀市公認「忍にん体操」を地域の子どもたちに広める活動をとおして、地域の健康維持に貢献する気持ちを持つ。また、高校生バージョンの創作をとおして、若者の健康意識を高めるだけでなく、伊賀の魅力を発信することや、伊賀を誇りに思う気持ちを持つ人材を育てる。【体力の保持・健康意識の醸成】、【企画・立案する力】、【表現する力】、【発信する力】を育成する。
- ⑤「総合研究」  
1年次から3年間、地域課題解決型キャリア教育に取り組んできた生徒たちが、3年間の集大成として伊賀を活性化させる方法を考え、解決策を提案・発信する取組を行う。これらの取組をとおして【分析してまとめる力】【企画・立案する力】【情報を活用する力】【表現する力】【ICTを活用する力】【発表する力】を育成する。

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名
1年次	学年全体	80人	産業社会と人間（2単位）、家庭基礎（2単位）
2年次	学年全体	76人	総合研究（1単位）、○製菓調理系列○健康福祉系列 等
3年次	学年全体	71人	総合研究（3単位）、○製菓調理系列○健康福祉系列 等

### ■大まかな流れ

#### 【1年次】（産業社会と人間）

- ・伊賀市役所、地域の事業者等による講話（講演会計3回、11人の講師）  
⇒伊賀市役所からは地域特性の紹介、現状や課題の提示など行い、課題設定の基礎とした。  
地域の事業者については複数招き、希望の事業者の居る教室へ生徒が回り事業内容などの講話を受けることで、フィールドワーク先の希望の参考とした。
- ・（一社）未来の大人応援プロジェクト 岸川政之さんによる講演会  
⇒今後の活動にあたって目的の再認識やモチベーションアップのための講演。他校の事例や活動動画も活用しながら、将来を見据えた高校生活の過ごし方について生徒らへ問いかけ。
- ・フィールドワーク  
⇒市内事業所へ6～7人程度に分かれバスに分乗し、午前・午後で2カ所訪問。事前学習で業務内容など基本的な情報は整理しておき、併せて聞きたい内容も検討したうえで参加した。振り返りでは各事業所で学んだことを記入するほか、『今の自分にとって「働く」とはなんですか』『今、やってみたい仕事はどんなことですか』など将来の進路を意識できるような項目も記入した。

【2年次】（総合研究Ⅰ） ※総合学科各系列での学び

- ・（一社）未来の大人応援プロジェクト 岸川政之さんによる講演会  
⇒年度冒頭の講演会で、授業や学校生活への姿勢等を語り、モチベーションの向上を図った。
- ・**学校紹介の1分間動画作成ワークショップ（以下、WS）**  
⇒学校の特徴について、3～4名のグループにて動画制作・プレゼンテーションを行った。動画の構成検討から鑑賞会まで50分2コマを5週に渡って丁寧に行った。  
1週目：1分間動画について・動画構成検討、2週目：撮影・確認、3週目：動画撮り直し  
4週目：発表練習、5週目：発表&投票 投票結果の上位は最終成果発表会でもプレゼンした。
- ・**他己紹介WS**  
⇒生徒同士ペアとなり、お互いの情報をヒアリング・まとめ、プレゼンテーションを行った。  
**表現力、人から話を聞き出す能力、自分の言葉で話す能力、アドリブ力などを鍛えるため実施。**

【3年次】（総合研究Ⅱ） ※総合学科各系列での学び

- ・**写真で一言WS**  
⇒2年次の他己紹介WSに続き、表現力、人から話を聞き出す能力、自分の言葉で話す能力、アドリブ力などを鍛えるため実施。ランダムに表示された写真に対し、本当でも嘘でも1分間話続けるという、2人1組になりアドリブでプレゼンテーションを行った。
- ・**自分プレゼンWS**  
⇒就職・進学先でやりたいことや将来の夢などのテーマを設定し、『過去・現在・未来』の時系列で口頭だけのプレゼン後、持ち時間90～120秒で各個人が順番に教壇に立ち発表した。内容や話し方は面接時の志望動機にも活用できるものとして意識づける。
- ・**地域活性化計画の作成**  
⇒生徒の出身の市（伊賀市、名張市、津市、亀山市）の市役所職員を招き、各市のまちの現状と課題についての講話を受けた後、その内容をふまえて課題解決のためのアイデアを検討した。具体化する際は、ワークシートにて情報を整理した後、PowerPointでプレゼン資料を作成した。
- ・**最終成果発表会に向けての発表練習・予選会**  
⇒地域活性化計画の発表として、ワークシートが出来た段階で口頭にて中間発表を行った。  
その後プレゼン資料を作成し、クラス単位での発表練習・発表会を行い、代表を3クラス各4人選出、計12人で学年全体の前で発表しさらに4人選出し最終成果発表会にて発表した。  
選出時にはGoogleフォームを活用し各生徒が評価を行った。



## 【その他（系列等での授業）】

### ・ 2、3年次での系列ごとの授業（美容服飾系列、製菓調理系列、情報教養系列、健康福祉系列）

⇒製菓調理系列：地域食材、野菜を使用したオリジナルスープ開発や、地域の食材（甘酒、赤ワイン等）を使った食パン等の開発を行う。

⇒健康福祉系列：伊賀市公認の「忍にん体操」にアレンジしたうえで、保育園との交流などを通じて普及をはかり、地域での活動を展開する。

### ・ 1年次家庭基礎での展開

⇒1分間動画WSを応用し、授業で学んだことをまとめた動画の提出を宿題とした。後日全体で鑑賞会をしながらGoogleフォームで評価や感想を入力しその場でフィードバックを行った。

⇒地域の伝統産業である「組紐」、実際に制作することをとおして、伝統産業の魅力に触れ、継承する意義を考える機会とする。完成したものを1年次のフィールドワークで使用する。



## 【専門学科】三重県立水産高等学校

### ■育てたい生徒の力

- ・生徒の「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を高め、地域社会で活躍する水産・海洋関連のリーダーとなる。
- ・海洋環境の管理、海洋資源の活用をとおして、持続可能な地域づくりに貢献する
- 地域社会から信頼され必要とされる学校を目指し、地域と連携した課題研究や特別活動を推進し、卒業後に水産業や船舶産業などにおいて地域社会で活躍する人材の育成を目指す。  
具体的には、志摩市が抱える諸課題について、生徒が地元で働く人々の話を聞いたり、考えを共有したりすることで、地域を愛し地域に誇りを持ち、地域を肯定的に捉える意識を高め、ICTや新聞を活用しながら、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめ、地域の現状を把握し、地域の課題を見出す。そのような学習をとおして得た明確な根拠や授業で学んだ基礎知識および概念等を活用して、自らが見出した課題について多面的・多角的に考察しながら探究をすすめ、その解決策を発見する。

### ■授業の概要（令和3年度）

年次	学科・系列	人数	授業名	単位数
3年次	学年全体	70人	課題研究	3

### ■大まかな流れ

#### 【1～2年次】

（海洋・機関科）と（水産資源科）それぞれの専門学科での基礎を学び、3年次の課題研究における探究活動につなげる。

#### 【1～3年次】

##### <共通した取組>

##### ㊦太平洋・島サミットに向けた取組

- ・鳥羽水族館と連携し、パラオオウムガイ等の生態学習
- ・ツクヨミ（カヌー）を利用した操船技術についての体験学習
- ・国際戦略課の三重県PR用ビデオへの出演
- ・パラオ高校とのオンライン交流

##### ㊧志摩市の活性化に向けた取組

- ・志摩市議会訪問による課題設定
- ・志摩市選挙管理委員会と連携した模擬投票
- ・活性化のヒントについての講演（三重大学教授）

##### ㊨今後の予定

- ・志摩市交通政策についての講演と対談（名古屋大学教授）
- ・志摩市長への提言

#### 【3年次】

##### <海洋・機関科（海洋コース）>

- ・志摩市から依頼を受けて、スクーバダイビング技術を利用し、近隣の海水浴場などのガンガゼを駆除（7月から数回に分けて実施）
- ・スクーバダイビング技術を利用し、志摩市と連携しアワビの稚貝の放流活動を行い、アワビの定着について調査・探究
- ・漁具の制作

### <海洋・機関科（機関コース）>

- ・卒業生が作製した磯ノミ（海女さんが漁で使う道具）の問題点を生徒同士で協議し、改良を進め、海女さんがより使いやすい磯ノミを製作し、更に改善した磯ノミを地元の海女さんに提供して課題点を協議し、一層の改善
- ・海洋コースの生徒がガンガゼ駆除に使用する工具を海洋コースの生徒と協議し改善するとともに、地元漁業者等へ配布
- ・東京海洋大学、三井造船特機エンジニアリング(株)、志摩市と産学官連携し「海の次世代モビリティ」として省人化や海の可視化を可能とし、海洋科学の知見を活用しながら海洋の持続可能な利用・開発・保全を進める実証事業を実施

### <水産資源科（アクアフードコース）>

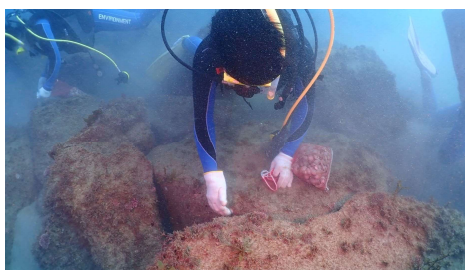
- ・マグロの廃棄部位を活用した食品開発に向けブルーフィン（株）および漁協と連携
- ・（株）利八屋（地元企業）と連携し、新商品の開発と販路拡大（学校 PR）
- ・東北大学、志摩市外の企業、志摩市、商業高校と産学官が連携し、美食地政学に基づく地域発生未利用資源の利活用技術を研究し、環境に配慮した水産加工を開拓

### <水産資源科（アクアデザインコース）>

- ・黒あわびの完全養殖に向けた取組として、三重外湾漁協安乗漁港から親アワビの見分け方の指導および種苗に関する指導、南伊勢町南勢種苗センターから種苗生産の指導を受け、実験を反映
- ・三重大学、志摩市と連携し、ナマコに係る増殖に向けた取組
- ・志摩マリンランドから天然記念物「ネコギギ」を引継ぎ、いなべ市から指導をいただき水産高校生が種の保存への取組
- ・真珠養殖について、出前授業(志摩市、大王中)

### <成果発表会>

- ・校内での成果発表の実施
- ・みえ探究フォーラム（県主催）への参加



## (2) より効果的な活動に向けて (ICT の活用の実践例)

### ① 1 分間動画制作ワークショップ

【目的：表現力・コミュニケーション能力の向上】

#### ■ テーマ

※人数・グループ数等にもよる

テーマの例	時間の目安※	時期	作成動画の活用例
自己紹介動画	50 分 2 コマ	1、2 年次 年度初め	生徒同士がお互いをより深く知る きっかけに
学校紹介動画	50 分 2 コマ ×2 週	2、3 年次	学校の持つ SNS アカウント等での 発信
地域の紹介動画	50 分 2 コマ ×3 週	インターンやフイ ールドワーク後	地域の事業所への提供、行政施設 等での放映
活動や授業のまとめ動画	50 分 2 コマ ×3 週	年度後半	授業の成果としての評価に

#### ■ 全体の流れ (共通)

##### ステップ 1：テーマの構成等を議論

- ・ワークシート等を用いコンセプトや構成、役割分担等を検討 (出演の他ナレーション、カメラなど)
- ・基本的なルールをあらかじめ設定・共有  
⇒ルールの例：原稿は見ずに撮影、編集無し (時間があれば OK)、全員参加、挨拶を入れるなど  
※対外的に公開・提供するような場合は内容やコンプライアンスに留意

##### ステップ 2：スマートフォンやタブレットで各自が撮影・提出

- ・自由な発想で見せ方の工夫ができると良い (イメージしやすいよう他校等の動画を見せると◎)
- ・授業内に提出もしくは宿題にして次回までに提出するとしてもよい  
⇒提出方法の例：Google クラウドに提出用フォルダを作成し集める  
iPhone の場合は AirDrop で教職員用の iPad へ集める など

##### ステップ 3：グループ単位での動画の紹介と鑑賞・評価

- ・動画を流す前に、コンセプトや見どころ、メンバー紹介など行うとよい。
- ・動画の内容について評価を行う  
⇒評価方法の例：生徒や教職員からコメント、評価項目を設定し Google フォームで回答する  
Google フォームでの結果を成果発表会の代表選考として活用

#### ■ 授業のポイント

- ・客観的に自分を見ることで他人からどのように見られているか認識 (話し方・仕草・服装など)。
- ・全員参加で協力して動画をつくる。
- ・動画の限られた時間の中で何を伝えたいか、重要な部分はどこか整理する。
- ・それぞれの生徒について挑戦できたレベルに対し評価をする (肯定的なコメントを意識)。
- ・『綺麗な動画を作る、アナウンサーのように原稿をスラスラ読む』ことが重要ではなく、自分の言葉で自分の考えを伝えることが重要。

#### ■ 応用編：動画作成中での様々なソフト等の体験を通じて知見を広げる

「学校紹介動画」「地域の紹介動画」「発表用動画」などを対外的に発信する際に動画のクオリティや内容を充実させたい場合 (もしくは動画制作についてさらに発展した活動を行う意向がある場合)、応用編として動画編集ソフトを活用することも考えられる。

## ・動画編集ソフトの概要

### 【特徴】

- ・テロップやBGM等を加えることで、作品のクオリティを高めることができる。
- ・プロの動画クリエイターのようにPCでの動画編集を体験することができる。
- ・フリーソフトでも十分に対応可能なため費用が不要となることもある。  
※動画編集自体は生徒が日常的に使っているスマートフォンアプリで出来る場合も多い。

### 【生徒への効果】

- ・動画作成の過程で「どのよう編集すれば相手が見やすいか」「どうすれば相手に伝えることができるか」といった視聴者の立場からの制作活動ができる。
- ・クオリティの高い動画ができ成功体験につながるため、動画編集にさらに興味を持ち、新しい活動へチャレンジしていく生徒が多くなる。

### 【扱いやすいソフトの例「ShotCut（ショットカット）」】

- ・完全無料であるが有料ソフトと同じような「トリミング」「字幕」「BGM」「トランジション」「書き出し」「クロマキー」等多くの機能がある。
- ・USBメモリにソフトを入れておくだけで別のパソコンでも使用できる「ポータブル版」が便利である（学校のパソコンにインストール不要）。  
※注意点：類似サイトが多く、必ず公式サイトからのダウンロードが必要

## ・動画編集ソフトを用いた活動

### 防災活動の紹介動画（昴学園高校）

防災活動（ロープワーク、救護、土嚢の積み方等）を体験することだけにとどめず、**「体験した内容を地域住民に伝える動画作成」**を目標に授業を実施。体験当日はグループが交互に体験と動画撮影を行う。撮影は生徒個人のスマートフォンや学校のタブレットを使用し、授業終了後に動画を提出した。

後日、パソコン室で動画編集を実施。撮影した動画から必要な部分を切り取り、つなぎ合わせたものに字幕とBGMをつけ完成させる。完成後、学年内で発表会を開催し、生徒間で投票を行った結果、上位であった数チームが全校の最終発表会で発表した。

### 学校紹介動画（昴学園・紀南高校）

**「高校生活入門講座」での発表**を目標に生徒目線での学校紹介動画を作成。**各部活や先生へのインタビューやドローンでの空撮などの素材を撮影し、動画編集ソフトで加工**。動画作成や編集に興味のある生徒を募り、放課後に活動を行った。

## ② プロジェクションマッピング制作ワークショップ

### 【目的：学校や地域のイベント等の賑わい創出】

※プロジェクションマッピング制作をとおして、表現力やコミュニケーション力、協調性等を養うとともに、校外からの評価もいただけることによって達成感や自己肯定感を高めることを目指す。

#### ■具体的な投影のイメージ

- ・文化祭や成果発表会のオープニングセレモニーとして投影
  - ・道の駅等にて期間限定のイルミネーションの代替として投影
  - ・既存のイベントにおいてコンテンツの1つとして投影 など
- ※実際に投影した様子はYouTube『未来の大人応援プロジェクト』で検索できる

#### ■使用するソフト・機材等の概要

ソフト	PowerPoint でアニメーションを組み合わせて制作するため特別な PC 等不要。 映像にこだわる場合は動画編集ソフトやドローンで素材づくりを行う。
プロジェクター	(体育館の壁一面の場合) 5,000lm (ルーメン) 程度の明るさ
映像の素材	学校等で保管している写真等を活用 その他写真・映像・イラスト・音楽はフリー素材を使用
場所	体育館、学校や商業施設等の外壁など

#### ■投影にあたっての条件や注意点等

- ・規模に応じたプロジェクターの明るさ  
⇒教室内や校舎の一部分であれば学校所有の一般的なプロジェクターでも投影可能。  
体育館や校舎壁面の規模以上になると、より高性能なプロジェクターが必要。
- ・投影対象の建物の色・形状  
⇒壁が濃い色や汚れている場合は△、ガラスには映らないため窓が多い場合やガラス張りは×
- ・投影場所によっては許可申請等  
⇒プロジェクターを設置する場所の管理者、道路沿いやまたぐ場合などは警察などに要相談。
- ・電源の確保  
⇒外で行う場合は、延長コードで届く範囲に使用できる電源があるかどうかを確認。

#### ■高校生が作るプロジェクションマッピングのポイント

- ・生徒や学校、地域の写真・動画を多用し、見る側が親しみを持つようなストーリー性のある内容とする。(レジャー施設等の大規模なプロジェクションマッピングとの差別化)
- ・低予算でかつノウハウが学校に蓄積されていくので継続的な実施が可能となる。
- ・投影場所を同じにして複数の学校が制作することで、進捗状況の情報交換や合同投影会を実施するなどの交流や連携のきっかけになることも期待できる。



### ③ WEB を通じた他校との交流・連携

#### 【目的：他校と連携した活動の推進】

Google Meet や Zoom、Microsoft Teams 等 Web 会議のシステムを活用して学校間でつながるケースも多くみられ、県内外の他校との交流・連携への意識が高まってきている。

#### ■ 他校との連携の例

- ・ 授業や放課後等で同様の活動をしている学校との連携
- ・ 地域特性が類似している（人口規模、立地、地域課題等）学校との交流
- ・ 参考となる活動をしている高校からのノウハウの提供
- ・ web で開催されるイベント、大会等への参加

#### ■ web を通じた他校との交流・連携の実践例

##### 他校の先進的な取組を参考とする中ではじまる連携（白山高校×浜松学芸高校（静岡県））

浜松学芸高校では『天浜線勝手に応援団』として天竜浜名湖鉄道沿線の魅力を PR するポスターを制作しており、白山高校は JR 名松線でも同じ取組を進めるために協力依頼を打診。

##### Web 会議で顔合わせ・交流を繰り返した後、浜松学芸高校が白山高校を訪問しノウハウを伝達。

その後、白山高校は『名松線勝手に応援団』として継続的に活動。

##### 共通した活動からはじまる連携（昴学園高校×松阪商業高校×南伊勢高校度会校舎×飯南高校）

プロジェクションマッピングに取り組んでいる学校が、それぞれの作品紹介やアニメーション作成の工夫など情報交換を行い、さらなるスキルアップにつながるよう交流会を実施。

交流会ではイベントへの合同参加を検討するなど、取組のさらなる発展につながった。

##### 全国高校生 SBP 交流フェアでの交流（開催地は皇學館大学、参加校は県内外 32 校（令和 3 年度））

地域で活動する全国の高校がそれぞれの取組を発表するなどして交流するイベント。令和 2・3 年度はコロナウイルス対策として全てオンライン実施としているが、参加校同士が連携するきっかけの場になっている。

#### ■ 教職員の声

##### 【WEB 会議システムの活用】

- ・ Web 会議システム（Teams、ZOOM、Google meet 等）を用いて外部講師による講演のあとに、テーマ別分科会（ブレイクアウトセッション）を設け、講師と生徒が直接やりとりすることでより深い学びにつながった。
- ・ 現地での参加ができない方にライブ配信することで、当日のうちに講評をいただくことができた。
- ・ 外部講師のアカウントを作成することで、生徒たちが直接質問や課題のやり取りをする場面もあった。こうした状況は教職員が把握し、安心してやり取りができるようにしており、教育効果と教職員の負担軽減にもつながった。
- ・ 各班の発表はグーグルフォームを用いて生徒が評価した。
- ・ Google Classroom で教職員と生徒との間での資料の共有やアンケート集計を効率よく行うことができるようになった。

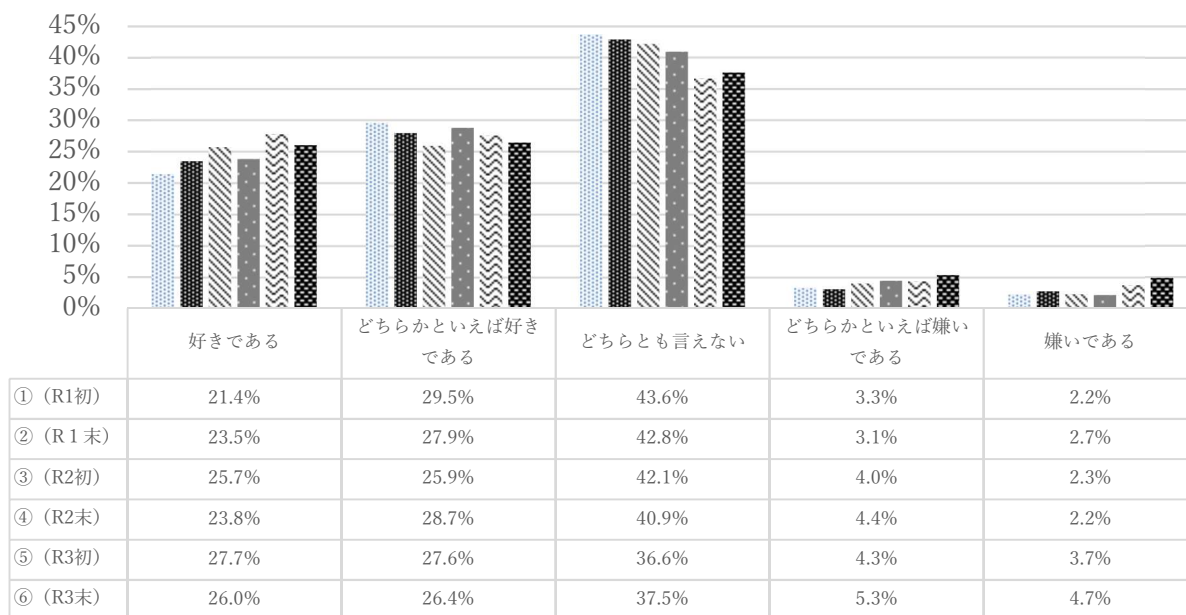
##### 【その他】

- ・ 授業における掲示資料については、パワーポイントやスライド等を利用していきたい。デジタル化することで、生徒にとって見やすく理解しやすいだけでなく、板書する時間を短縮でき、これまでより授業の質を向上することができる。
- ・ 事前に実習の手順等を YouTube で配信し、生徒が視聴したことがより効果的な授業につながった。

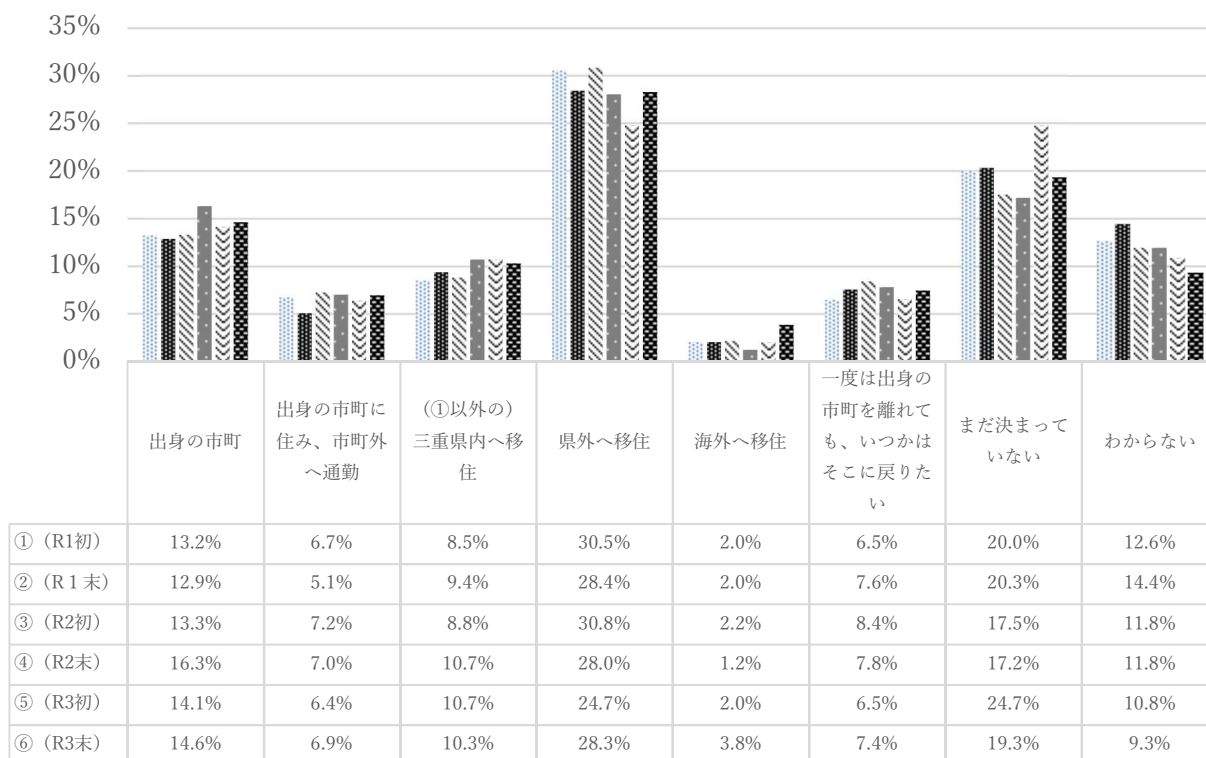
### (3) 生徒アンケート

- 調査時期 第1回令和元年9月、第2回令和2年1～2月、第3回令和2年6月  
 第4回令和3年1～2月、第5回令和3年5月、第6回令和4年1～2月
- 対象校 実践パイロット校8校9校舎（飯南高校以外）
- 対象生徒 地域課題解決型キャリア教育のカリキュラム対象生徒  
 1回:764人, 2回:950人, 3回:1051人, 4回:1156人, 5回:1150人, 6回:811人

#### (A) あなたは、学校のある地域（市町）のことをどう思っていますか。

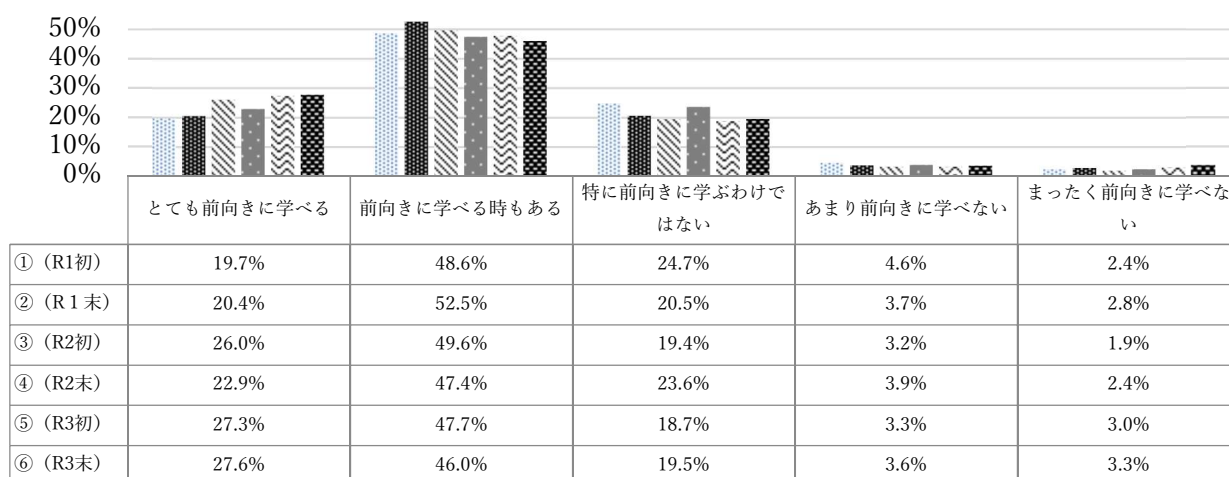


#### (B) 将来（高校や大学等を卒業後）、どこで生活したり、働いたりしたいですか。

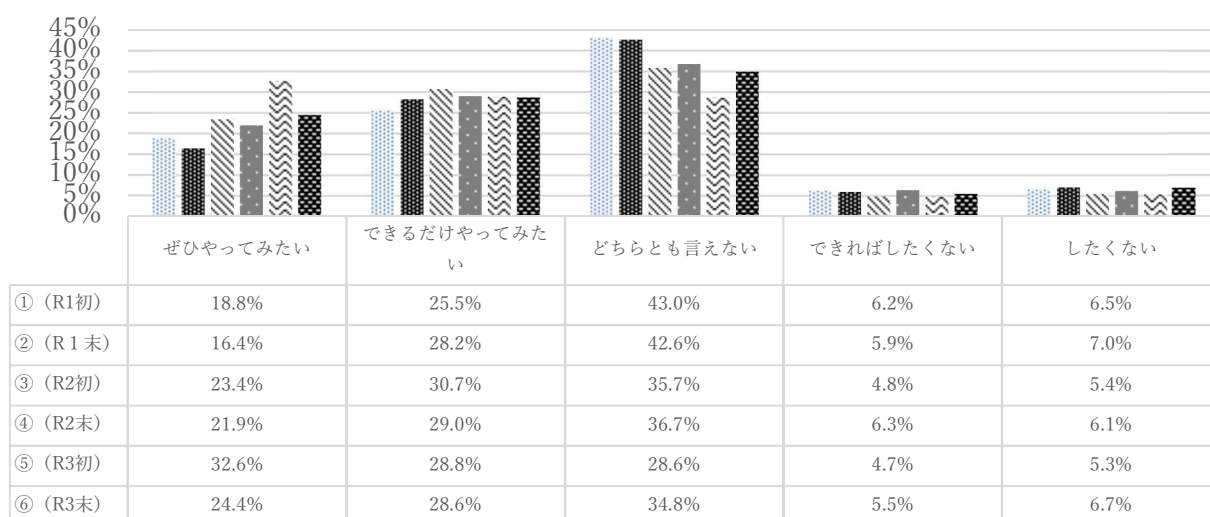




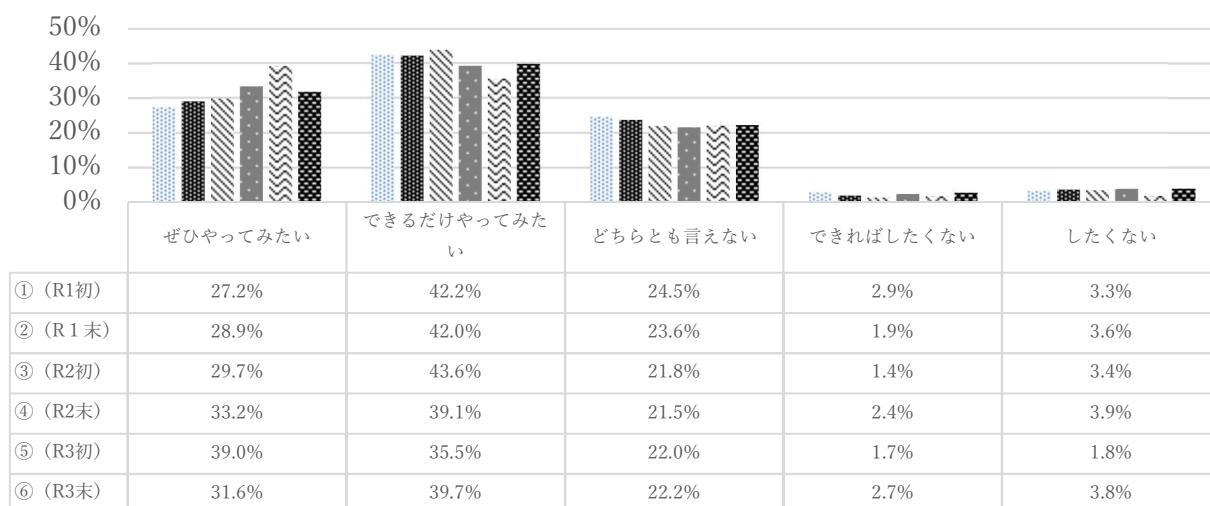
(C) 高校で地域のことを学習することについて、あなたの考えに近いものを選んでください。



(D) あなたは、授業中にグループで話し合うなど生徒同士での活動や学習を（もっと）したいと思いますか。



(E) あなたは、新しいことに挑戦したいと思いますか。



## (4) ご協力いただいた事業所・講師等

地域課題解決型キャリア教育を進めるにあたり、各地域で下記の方々をはじめ多くの事業所・講師等の方々にご協力いただきました。皆様に深くお礼申し上げます。

番号	連携・協力先 (人物名・会社名)	業種・分野	市町	住所	内容	連絡先	ホームページ	備考(体験や講演内容等)
1	やまちょう 代表 園 様	卸売業 小売業	津市	白山町南家城 1093-1	インターンシ ップ・講演会	059-262-3061	<a href="http://893yamachou.info/">893yamachou.info/</a>	長年インターンシップを受入。 地域を盛り上げる活動に協力的。
2	DADWAY(株) デザイナー 久世 様	学術研究 専門	津市	白山町南家城 1195-2	講義 ワークショップ		<a href="http://www.dadway.com">www.dadway.com</a>	白山高校卒業生でデザイナーとして活躍。 学校の教育活動に協力的、講演会で興味深い話をいただいた。
3	節知洋菓子店 代表 岩田 様	飲食 サービス業	津市	白山町南家城 1154-1	事業所PR活動等	059-262-7778	<a href="http://sechi.exblog.jp">sechi.exblog.jp</a>	事業所PR活動等において、生徒によるインタ ビューなど積極的に対応。
4	いなべ市聴覚障害者 福祉協会 伊藤作夫 様 加藤静香 様	手話講師	いなべ市	員弁郡東員町 笹尾東4丁目 12-7 (会長宅)	講義 ワークショップ			福祉コースの生徒向けに手話の講習。 成果発表会で枚歌を手話で披露するまで指 導。
5	藤田こんにやく 代表 藤田 様	小売業	津市	美杉町八知 6909-1	飲食サービス業	059-274-0781	<a href="http://www.fujita529.com">www.fujita529.com</a>	美杉で手づくりこんにやくを製造。 長年、こんにやく講習会を受入。
6	リバーパーク真見 代表 松井 様	サービス業	津市	白山町真見871	インターンシ ップ	059-262-5002	<a href="http://riverpark-mami.com/">riverpark-mami.com/</a>	学校の教育活動に協力的で、長年インター ンシップを受入。生徒へ熱心に指導。
7	津市観光協会 角谷 様	サービス業	津市	羽所町700	名松線ポスター 広報活動	059-246-9020	<a href="http://www.tsukanko.jp">www.tsukanko.jp</a>	名松線勝手に応援団によるポスター制作活 動で大変お世話になる。学校の活動に理解 を示し、ポスターの広報に尽力。
8	写真のはせ 長谷茂 様	サービス業	津市	鳥居町39-34	講義 ワークショップ	059-228-4333	<a href="http://hasestudio.com">hasestudio.com</a>	学校の教育活動に協力的で、名松線勝手に 応援団によるポスター制作活動において御 指導していただいた。
9	たろうの店 「ようこそ」 山崎 様	飲食 サービス業	津市	美杉町太郎生 1943-2	講演会	059-261-2600	<a href="http://wowmap.jp">wowmap.jp</a>	学校の教育活動に協力的で、講演会など にも積極的に生徒の満足度も高い。
10	株式会社 三ツ知製作所 部長 堀出 様	製造業	松阪市	飯南町向粥見 159番地3	インターンシ ップ、講演会、企業 見学	0598-32-2200	<a href="http://www.mitsuchi.co.jp/">www.mitsuchi.co.jp/</a>	飯南高校のコンソーシアムメンバー。飯南 高校の教育に関して熱心かつ協力的で、各 種会議や生徒発表会への参加もしていただ く。生徒とともにできる活動内容をいた だくこともあり、地域での人材確保の面も関 心がある。
11	有限会社深緑茶房 代表取締役 松倉大輔 様	農業	松阪市	飯南町粥見 4209番地2	インターンシ ップ、フィールド ワーク	0598-32-5588	<a href="http://www.shinsabo.com/">www.shinsabo.com/</a>	飯南高校のコンソーシアムメンバー。飯南 高校の教育に関して熱心かつ協力的で、各 種会議や生徒発表会への参加もしていただ く。地域創造サミットでのFW先としても ご協力いただく。
12	有限会社上野屋 代表取締役 佐々木幸太郎 様	製造業 卸売業	松阪市	飯高町宮前 1468番地1	インターンシ ップ、フィールド ワーク	0598-46-0007	<a href="http://konnyaku.co.jp/">konnyaku.co.jp/</a>	飯南高校のコンソーシアムメンバー。飯南 高校の教育に関して熱心かつ協力的で、各 種会議への参加もしていただいている。夏 季休業中でのインターンシップやFW先 としてもご協力いただく。
13	NPO法人 sierra 理事長 太田寛 様	アウトドア	松阪市	飯高町下滝野 1569番地	フィールドワーク	080-3630-4396	<a href="http://i-sierra.com/">i-sierra.com/</a>	飯南高校のコンソーシアムメンバー。飯南 高校の教育に関して熱心かつ協力的で、各 種会議への参加もしていただいている。登 山やカヌー体験などイベントを地域で数多 く行い、人脈は幅広い。
14	亀成園 成岡篤史 様 成岡真清 様	農園 宿泊業	松阪市	飯高町森 1711番地	インターンシ ップ、フィールド ワーク、講演会	050-7107-7847	<a href="http://www.kamenarien.com/">www.kamenarien.com/</a>	飯高町の自然に惹かれ、都会から移住され たバウフルな夫婦2人で運営。インター ンシップや講演会でご協力いただく。また、 地域創造サミットでのFW先としてもご協 力いただく。
15	もくいち・マルゴ 株式会社 様	林業	松阪市	飯高町作滝 107番地1	フィールドワーク	0598-46-1991	<a href="http://mokuichi.jp/">mokuichi.jp/</a>	応援団Circleが考案した木の手帳の共同先 として、飯南高校の教育活動に関わって いただく。また、地域創造サミットでのFW 先としてもご協力いただく。
16	有限会社ゑびや 代表取締役 小田島春樹 様	飲食業	伊勢市		講演会		<a href="http://www.ise-ebiya.com/">www.ise-ebiya.com/</a>	A1で来客予測データを分析し、最先端の 技術でおはらい町通りの老舗を経営。ビ ジネス雑誌やテレビ等、数々の取材を受けて いる。

番号	連携・協力先 (人物名・会社名)	業種・分野	市町	住所	内容	連絡先	ホームページ	備考 (体験や講演内容等)
17	みやまや 西村友一様	漁業 宿泊業	紀北町	海山区矢口浦 917番地2	講演会	0597-39-1037		地元に戻ってアオサノリの養殖や宿泊施設を展開している。仕事や生き様についての講演は、本校生徒・教員からの満足度が高い。
18	あさい農園 代表取締役 浅井雄一郎様	農業	津市	高野尾町 4951番地	講演会	059-230-1212	<a href="http://www.asainursery.com/company/">www.asainursery.com/company/</a>	講演では最先端技術を駆使した農業を展開する様子について話してもらえ、テクノロジー系や農業系の大学進学を目指す生徒にとってはオススメ。
19	岸川政之様	地方創生 プロジェクト	多気町	多気32-2	講演会	090-5100-6966		多気町役場勤務時の「高校生レストラン」(相可高校 まごの店)の仕掛け人として知られ、現在、皇學館大学現代日本社会学部教授等として、全国各地の地方創生プロジェクトで活躍。地域産業と直に関わり課題解決に取り組む学生をバックアップする。
20	一般社団法人 未来の大人プロジェクト 様	教育	伊勢市	伊勢市本町8-11	特別授業	080-3829-1413	<a href="http://miraiotona.jp/">http://miraiotona.jp/</a>	PowerPointで作れるプロジェクトマップの製作で夢中になる生徒も。自分たちの作品を校舎などに投影して作品を鑑賞。技術が身につけ、地元イベントなどに活動の場を拡げることが出来る。
21	はしもとみお様	彫刻家	三重県		講演会		<a href="https://mihashimoto.com/">https://mihashimoto.com/</a>	日本を代表する彫刻家で、動物をモチーフにした愛らしい作品が多く、特に芸術に関心のある生徒の刺激になる。人生や将来、進路選択への大切な話に生徒の満足度は高い。講演テーマ「作家の日常と高校生活の過ごし方」。
22	中村安希様	作家	滋賀県	大津市柳が崎 9-1-1217	講演会	090-1723-3646	<a href="https://akinakamura.net">https://akinakamura.net</a>	ノンフィクション作家で、47カ国に及ぶ取材旅行をもとに書いた『インパラの朝』で開高健ノンフィクション賞を受賞。現在も世界各地の生活の取材を続ける。講演テーマは「世界旅に行ってみないか」。世界中の体験からの話題は分かりやすく、満足度も高い。
23	浦中こういち様	絵本作家	大台町	本田木屋205	特別授業	090-7670-4568	<a href="https://www.kouichi-uranaka.com/">https://www.kouichi-uranaka.com/</a>	絵本・あそび歌作家、保育アドバイザー、大台町在住。保育園を退職後、「バナナをもって」で絵本作家デビュー。講演会やワークショップなど子どもや保育に関わる幅広い活動を展開。高校のニーズに合った内容で、生徒は楽しんで授業を受け好評だった。
24	吉川和人様	木工作家	東京都	世田谷区砧 8-30-19-310	体験授業	090-8495-6559	<a href="https://www.kazutovoshikawa.com/">https://www.kazutovoshikawa.com/</a>	木工作家、現在は東京で制作活動中。大台町にも工房を持ち、東京と大台町で製作を行う。昇学園では環境技術系列の生徒にバターナイフやソーブトレーの製作指導を行う。丁寧に作品をつくるプロフェッショナルの姿は、生徒に良い刺激となる。
25	小笠原一城様	農業(お茶)	大台町	高奈2714	特別授業	090-1727-7399 0598-83-2086	<a href="https://www.pref.mie.lg.jp/nouei/hq/28918026847.HTM">https://www.pref.mie.lg.jp/nouei/hq/28918026847.HTM</a>	元三重県茶業研究室長。県総合文化センター生涯学習センターの茶作りアドバイザー。お茶の栽培・加工指導から、電子レンジを使った簡単なお茶の作り方指導等も行う。手もみ茶作りや利き茶体験は生徒も参加。
26	友栄水産 代表 橋本純様	漁業	南伊勢町	阿曾浦345	講演・フィールド ワーク・インター ンシップ	0596-72-1351	<a href="https://yuuei.co.jp">https://yuuei.co.jp</a>	「漁村で学ぶ、自然を学ぶ」をモットーに、マダイ養殖、漁村体験・宿泊・オンラインショップの運営など、これからの漁業のあり方を学ぶことができる。
27	アサヒ農園 代表 田所一成様	農業	南伊勢町	内瀬202	講演・フィールド ワーク・インター ンシップ	0599-65-3107	<a href="http://www.naizemikan.com">www.naizemikan.com</a>	内瀬ブランドのみかん栽培から品種の展開、東京の千足屋や志摩観光ホテルとのビジネスの方向性に至るまで「こだわりの仕事」を体感できる。
28	日本ヘリス株式会社 代表 稲田英巨様	観光(レ ジャー)	南伊勢町	田曾浦119-1	フィールドワーク	0599-69-2552	<a href="http://www.iseshima-heli.jp/">http://www.iseshima-heli.jp/</a>	南伊勢町のロケーションから、自然とアクティビティを最大限活かした「新しい観光のあり方」を知ることができる。代表の話から仕事の魅力や熱意が伝わる。
29	農村公園 里の駅 ないぜ しぜん村 代表 山出公一郎様	みかん狩り 地場産販売 加工体験	南伊勢町	内瀬1537-8	フィールドワーク、 インターン シップ	0599-67-8100	<a href="http://www.naize.net">http://www.naize.net</a>	五ヶ所みかん・五ヶ所小梅などの地場産農産物の販売や、みかん狩り、米の収穫、ジュースづくりなどの体験、農業の展開について学ぶことができる。
30	むすび目Co-working (油屋IIなど) 様	移住・定住	南伊勢町	内瀬1536-1	フィールドワーク		<a href="https://kii3.com/mu-subime">https://kii3.com/mu-subime</a>	移住定住コーディネーター 西川様、保育園コンサル 西岡様、漁師 伊澤様によるグループ。問合せは南伊勢町まちづくり推進課へ

番号	連携・協力先 (人物名・会社名)	業種・分野	市町	住所	内容	連絡先	ホームページ	備考 (体験や講演内容等)
31	みらいこ株式会社 代表 山岡茂治 様	コンピュータ 技術サービス	伊勢市	伊勢市本町8-11	ICTやSTEAMに関する 授業・ワーク ショップ・放課後 活動・講演等	070-3824-8843	<a href="https://miraico.co.jp">https://miraico.co.jp</a>	AI・IoT・ドローン・動画・プログラミング などの授業やワークショップの実施、キャ リアに関する講演などを実施。生徒の放課 後活動などにも協力。
32	有限会社 大河内 代表取締役 山本真太郎 様	建設 土木 工業	度会郡	度会町棚橋525	講演会 フィールドワーク 等	0596-62-0629	<a href="http://www.okouchi.net/">www.okouchi.net/</a>	学校の教育活動に協力的で、中学生へ出前 授業を行なう団体『ビジネスパーク伊勢』 の講師。自身のキャリア、会社に関する講 演、工場見学、インタビューに対応。
33	たいやき わらしべ 代表取締役 福田圭 様	宿泊業 飲食サービス 業	伊勢市	小俣町宮前736-1	講演会 フィールドワーク 等	0596-24-0648	<a href="http://taiyaki-warashibe.com">taiyaki- warashibe.com</a>	学校の教育活動に協力的で、県外の学校と も商品開発を実施。
34	いせしま 森林組合 様	農業 林業	度会郡	度会町大野木 2756-1	フィールドワーク	0596-62-0018		フィールドワークに対応いただける。実際 に山へ行き、伐採などを体験。
35	株式会社 御木本真珠島 様	サービス業	鳥羽市	鳥羽1丁目7-1	フィールドワーク等	0599-25-2028	<a href="http://www.mikimoto-pearl-museum.co.jp/">http://www.mikimoto- pearl- museum.co.jp/</a>	鳥羽や真珠養殖の歴史、鳥羽の産業を学べ る。地域の変化を学ぶのに非常に参考とな る。
36	鳥羽シーサイドホテル 株式会社 様	宿泊業 飲食サービス 業	鳥羽市	安楽島町1084	フィールドワーク等	0599-26-6163	<a href="https://www.tobaseasidehotel.co.jp/">https://www.tobasea sidehotel.co.jp/</a>	学校の教育活動に協力的で、鳥羽の観光業 の現状と課題やホテル業務全般について丁 寧に説明・指導してくれる。
37	株式会社 アルファコード 様	学術研究 専門・技術 サービス業	東京都	文京区湯島3-1-3 MSビル 8F	VR作成支援 ICTの授業	03-6774-0693	<a href="https://www.alphacode.co.jp/">https://www.alphaco de.co.jp/</a>	VRを作成するための360度カメラを用いた撮 影方法や、編集方法と実社会での活用方法 を丁寧に指導。
38	日経BP 様	教育 学習支援業	東京都	港区虎ノ門 4-3-12	ICT関係の授業	03-6811-8171		フィールドワークの方法や、教育における ICTの活用方法など教員へも丁寧に講演。
39	鳥羽大庄屋 かどや 様	学術研究 専門・技術 サービス業	鳥羽市	鳥羽4丁目3-24	フィールドワーク等	0599-25-8686	<a href="http://www.hironotei.jp/">http://www.hironote i.jp/</a>	鳥羽市内の経済の発展を学べる施設。歴 史・文化様々な価値あるものが多く展示。
40	島の旅社 様	宿泊業 飲食サービス 業	鳥羽市	答志町943	フィールドワーク等	0599-37-3339	<a href="https://www.shimatabi.net/">https://www.shima- tabi.net/</a>	鳥羽にある有人離島での体験学習の支援。 食文化の体験や、離島ならではの生活な どについて紹介や体験を企画。
41	NPO法人 伊勢志摩バリアフリー センター 様	医療、福祉	鳥羽市	鳥羽1丁目2383-13 鳥羽1番街1F	講演会等	0599-21-0550	<a href="https://www.barifuri.com/">https://www.barifur i.com/</a>	鳥羽市の観光について詳しく紹介。また車 いすなどをを用いてスムーズに行ける観光地 も紹介。代表には学校で福祉の授業でも指 導。
42	志摩市民病院 様	医療	志摩市	大王町波切1941-1	インターンシ ップ、フィール ドワーク、講演 会	0599-72-5555 看護師長 池田幸子様	<a href="https://shimacityhospital.jp/">https://shimacityho spital.jp/</a>	小中学校の職場体験も積極的に受入。施 設・設備の見学だけでなく、体験的な活動 も可能。江角院長には、講演で情熱的な話 をいただける。
43	心勢水産 まるせい 様	水産業 飲食業	志摩市	阿児町安楽178-3	インターンシ ップ、フィール ドワーク	0599-47-0129 代表取締役 片山勝仁様	<a href="https://anorifuguo.jp/marusei/">https://anorifugu.o. jp/marusei/</a>	水産資源の保全、地域事業の継続、6次産 業化の話等、自身の熱い思いを話してい ただける。学校の教育活動に理解があり、体 験的な活動も可能。
44	志摩地中海村 様	宿泊業	志摩市	浜島町迫子2619-1	フィールドワーク	0599-52-1226 総務部 坂様	<a href="https://www.puebloamigo.jp/">https://www.puebloa migo.jp/</a>	代表取締役の大西様は、志摩高校の活性化 協議会の委員を務めていただき、学校の教 育活動に協力的。家庭部の商品開発にも協 力いただき、「あおきスコーン」を完成させ た。また水産高校での食材を使った新製 品の開発も協力いただいた。
45	アマナム 様	宿泊業	志摩市	浜島町迫子2165	フィールドワ ーク、講演会	0599-52-5000 アクティビ ティーマネ ージャー田中幹之 様	<a href="https://www.aman.com/jaip/resorts/amanemu">https://www.aman.c om/jaip/resorts/ama nemu</a>	フィールドワークでは、施設・設備の見学 だけでなく、地域活性化や地域貢献につ いてレクチャーも。総支配人の田中様には、 国際教育の職員研修会で講演も依頼。
46	(有) 伊勢志摩冷凍 様	水産加工業	志摩市	阿児町鶴方1401-4	フィールドワ ーク、講演会	0599-43-1900 常務取締役 石川隆将様	<a href="http://shimareij.com/">http://shimareij.com /</a>	フィールドワークでは加工工場を見学。地 域職業人講演会では、ご自身の生き方から 地域活性化に対する熱い思いをお話いただ く。
47	きんこ芋工房 上田商店 様	製造業 飲食業	志摩市	阿児町安楽794-1	フィールドワーク	0599-47-3517 専務取締役 橋麻衣様	<a href="https://kinkoimoco.jp/">https://kinkoimo.co jp/</a>	学校の関係者評価委員を務めていただき、 学校の教育活動に協力的。講演会や商品開 発等でも協力いただけるのではないかと。
48	三重外湾漁港 和具事業所 様	漁業	志摩市	志摩町和具1896-53	インターンシ ップ	0599-85-1122		漁業体験の実施。

番号	連携・協力先 (人物名・会社名)	業種・分野	市町	住所	内容	連絡先	ホームページ	備考（体験や講演内容等）
49	東京海洋大学 (後藤助教 様)	大学	東京都	江東区	出前講座	03-5245-7300		水中ドローンの出前講座の実施。
50	三井造船特機 エンジニアリング 様	製造業	千葉県	市原市 八幡海岸通り 1	連携事業	0436-41-5813		水中ドローンの出前講座の実施。
51	南勢種苗 センター 様	増殖	度会郡	宿浦672-5	出前講座	0599-69-3161		アワビの種苗指導。
52	株式会社 利八屋 様	食品加工	伊勢市	植山町80-1	連携事業	0596-37-3010		新食品開発で連携。
53	株式会社 大田酒造 様	製造業	伊賀市	上之庄1365-1	フィールドワーク等	0595-21-4709	<a href="https://www.hanzosake.com/">https://www.hanzosake.com/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
54	株式会社 福岡醤油店 様	製造業	伊賀市	鳥ヶ原1330	フィールドワーク等	0595-59-3121	<a href="https://www.hasamezu.com/">https://www.hasamezu.com/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
55	有限会社 中林牧場 様	農業・林業	伊賀市	山畑332-3	フィールドワーク等	0595-45-5659	<a href="http://www.igaushi.com/">http://www.igaushi.com/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
56	三重県組紐 協同組合 様	教育 学習支援業	伊賀市	上野丸之内116-2	フィールドワーク等	0595-23-8038	<a href="http://kumihimo.or.jp/index.html">http://kumihimo.or.jp/index.html</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
57	伊賀鉄道 株式会社 様	運輸業 郵便業	伊賀市	上野丸之内 61番地の2	フィールドワーク等	0595-21-0863	<a href="https://www.igatetsu.co.jp/">https://www.igatetsu.co.jp/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
58	伊賀の里 モクモク手づくり ファーム 様	宿泊業、 飲食サービス業	伊賀市	西湯舟3609	フィールドワーク等	0595-43-0909	<a href="http://www.mokumoku.com/">http://www.mokumoku.com/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
59	若戎酒造 株式会社 様	製造業	伊賀市	阿保1317	フィールドワーク等	0595-52-1153	<a href="https://www.wakaebis.co.jp/">https://www.wakaebis.co.jp/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
60	伊賀上野 ケーブルテレビ 株式会社 様	情報通信業	伊賀市	緑ヶ丘南町2332	フィールドワーク等	0595-24-2560	<a href="https://www.ict.jp/">https://www.ict.jp/</a>	フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
61	忍にん体操 普及会 様	教育 学習支援業	伊賀市		フィールドワーク等	0595-22-9653 伊賀市役所健康 福祉部健康推進課		フィールドワーク、職業人へのインタビュー、出前授業等に対応していただける。
62	東海旅客鉄道 株式会社 様	運輸業	名古屋	中村区名駅 一丁目3番4号	防災学習	052-564-2468	<a href="https://company.ircenrail.co.jp/company/about/outline.html">https://company.ircenrail.co.jp/company/about/outline.html</a>	列車乗車時に地震が発生した際の避難方法の講話等の実施に協力的で、知識と体験をふまえた学習ができた。
63	有限会社 ウミガメフーズ 様	小売業 観光業	紀宝町	井田568-7	インターンシップ等	0735-33-0300	<a href="https://umigamekouen.com/">https://umigamekouen.com/</a>	道の駅紀宝町ウミガメ公園を運営。インターンシップの受入や、授業で取り組んだプロジェクト上映への協力。また、道の駅協議会との連携の橋渡し役として、地元企業とのコラボレーション企画にも協力。
64	パーク七里御浜 株式会社 様	小売業 観光業	御浜町	阿田和4926-1	インターンシップ等	05979-2-3589	<a href="https://www.michinoeki-mihama.com/">https://www.michinoeki-mihama.com/</a>	道の駅パーク七里御浜を運営。インターンシップの受入や、授業で取り組んだ作品の展示、読み聞かせボランティアとの連携などに協力。また、道の駅協議会との連携の橋渡し役として、地元企業とのコラボレーション企画にも協力。
65	ソルト グラフィック 様	学術研究、 専門・技術 サービス業	熊野市	木本町 8 3 8	ワークショップ	090-5457-4044	<a href="https://saltgraphic.com/">https://saltgraphic.com/</a>	牟婁地域出身のデザイナーで、地元の活性化に貢献いただく。高校生への理解もあるため、ワークショップの体験も可能。
66	JA伊勢 宮農柑橘グループ 様	農業	御浜町	下市木2271	フィールドワーク等	05979-2-4545	<a href="https://www.iaise.jp/publics/index/104/">https://www.iaise.jp/publics/index/104/</a>	地元の特産品みかんをテーマにした授業のフィールドワーク先として全面的に協力。農家の方との橋渡しも。
67	御浜町役場 農林水産課 様	公務	御浜町	阿田和6120-1	コーディネート等	05979-3-0517	<a href="https://www.town.mihama.mie.jp/">https://www.town.mihama.mie.jp/</a>	地元の特産品みかんをテーマにした授業のコーディネーターとして全面的な支援。授業担当者として講義やフィールドワークを実施。

## (5) 参考となるwebサイト等

### ①RESAS 地域経済分析システム（内閣府：地方創生推進室）

RESAS とは、地域経済に関する様々なビッグデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）を、地図やグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステム。地域探究等の授業での活用事例や授業モデルを提供する『RESAS for Teachers』もあり、教材となる資料等のダウンロードも可能。



⇒検索 **RESAS** <https://resas.go.jp/#/1/01100>

#### 地域経済分析システム（RESAS）マップ一覧

<b>①人口マップ</b>  人口推計・推移、人口ピラミッド、転入転出等が地域ごとに比較しながら把握可能	<b>②地域経済循環マップ</b>  自治体の生産・分配・支出におけるお金の流入・流出が把握可能	<b>③産業構造マップ</b>  地域の製造業、卸売・小売業、農林水産業の構造が把握可能	<b>④企業活動マップ</b>  地域の創業比率や黒字赤字企業比率、特許情報等が把握可能	<b>⑤消費マップ</b>  POSデータによる消費の傾向や外国人の消費構造が把握可能
<b>⑥観光マップ</b>  国・地域別外国人の滞在状況等のインバウンド動向や、宿泊者の動向等が把握可能	<b>⑦まちづくりマップ</b>  人の流動や事業所立地動向、不動産取引状況など、まちづくり関係の情報が把握可能	<b>⑧医療・福祉マップ</b>  地域の雇用や医療・介護について、需要面や供給面からの把握が可能	<b>⑨地方財政マップ</b>  各自自治体の財政状況が把握可能	<b>総メニュー数の推移</b> <スタート時> <現在> 25メニュー (2015年) → 81メニュー (2021年12月) 約358万PV (2015年度) → 約752万PV (2020年度) ※現在公開中のメニュー数

参考：内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局、内閣府 地方創生推進室  
2021年12月『地域経済分析システム（RESAS）のデータ一覧』より

### ②STEAM ライブラリー（経済産業省）

STEAM ライブラリーとは、24の事業コンソーシアム(大学・研究機関・教育産業等)が提供する、「SDGsの社会課題」「社会にある様々なシゴト」「日常の生活や趣味」を入口に探究的・教科横断的な学びを始めるきっかけになる63テーマの「動画・資料コンテンツ群」。



一つひとつのコンテンツは従来の教科の枠組みにとらわれない統合的・学際的な社会課題や身近な生活課題を取り扱い、SDGs（国連持続可能な開発目標）の17項目にも紐付けられている。

⇒検索 **STEAM ライブラリー** <https://www.steam-library.go.jp/>

### ③三重県職場体験・インターンシップ受入事業所の案内（三重県）

三重県教育委員会事務局高校教育課のサイトで、県内の事業所先約2,000件が登録されており、職場体験・インターンシップの受け入れ先を検索することが可能である。

⇒検索 **三重県 インターン受入事業所** <https://www.internship.pref.mie.lg.jp/>

## 地域課題解決型キャリア教育の手引き

令和4年3月

三重県教育委員会事務局 教育政策課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

TEL 059-224-2951 FAX 059-224-2319

Email [kyosei@pref.mie.lg.jp](mailto:kyosei@pref.mie.lg.jp)

編集協力 一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト

〒519-2154 三重県伊勢市本町8-11